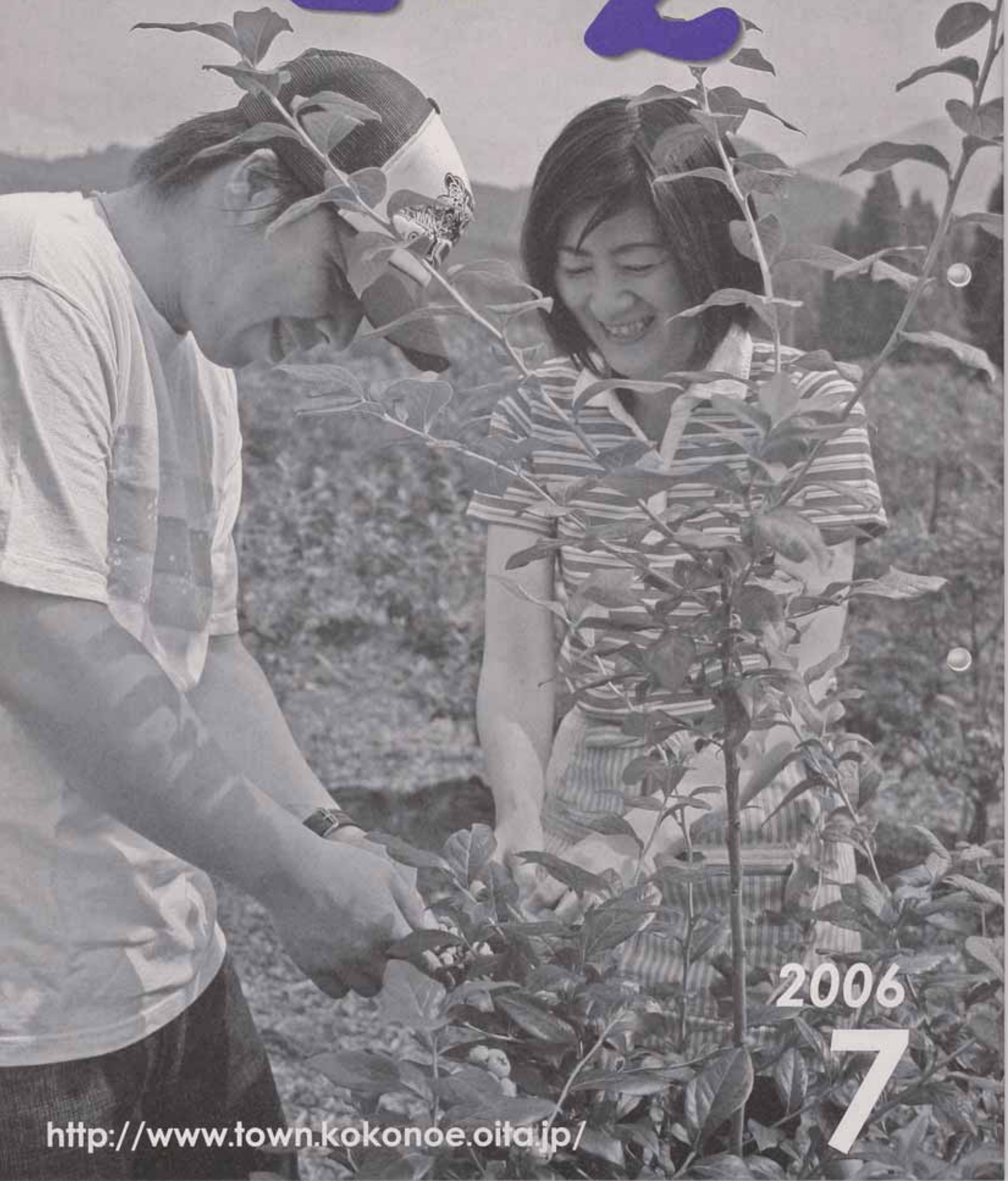


No.602

広報

ココノエ



2006

7

<http://www.town.kokonoe.oita.jp/>

はじまる 14ヘクタールの ブルーベリー物語

ついに、西日本一達成です。
ブルーベリー作付面積14ヘクタール。
今年から、本格的な収穫が開始です。
さっそく、町内各地から、甘酸っぱい果実にちな
んだニュースが届き始めました。

九重町が西日本一の産地化を本格的にめざし始め
たのが、今から4年前。

わずかな期間で、目標を達成した理由はいくつか
考えられます。

生育に適した環境、町などの支援体制……。
その中で、一番大きかったものは、やっぱりこれ。
100人近くいるという生産者のみなさん一人ひと
りの力です。

それぞれが、いろいろな夢を描きながら育てたブ
ルーベリーの木が、町の大きな夢をかなえました。

しかし、本当の夢はこれからです。
この恵みをどうやって生かしていくのか。

テーマは盛りたくさんです。

一方で、生産者だけでなく、使う側もブルーベ
リーを活用した新たな挑戦がスタートしました。

「ブルーベリーの畑で、夢を追いかけて」
がいつしか、

「ブルーベリーの町で、夢を追いかけて」に。

14ヘクタールからはじまった「ブルーベリー物語」。
これから、どんなストーリーを、この町にもたら
すでしょうか。

すでに始まった10の物語をお届けします。

● MEMO ●

面積は西日本一。

九重町のブルーベリー生産量はどれくらいに？
本格的な収穫が始まった今年も4トンを見込み、
2008年度は30トンまで増やす予定です。



01 ここは、いつもより ゆっくり呼吸したくなる

梅木香織さん×梅木健太郎さん

「大 自然の中で、小鳥のさえずりなどを聞きながら、ゆったりと楽しんでもらえるとうれしいです」

ブルーベリー摘み取り園「ベリージュファーム」代表の梅木香織さん（申野）。夫の健太郎さんとともに、木の植栽や手入れなどの傍ら1年ほど前から準備を進め、7月1日にようやく開園にこぎつけました。

50 アールの園内には40種類約1,000本のブルーベリーが植えられており、そのうち約400本が今年から収穫可能で、園内は試食自由。除草剤など農薬は一切使わず、安心して楽しむことができます。

「小さい子ども、らくらく収穫できるし、種や皮など捨てる場所がないのがブルーベリーの魅力。またお菓子やジャムなどの加工に適しているのもいいですね」

園の入口には、自分のところで取れたブルーベリーを使ったジュースやアイスなどが味わえる店を配置。「畑があるから、ケチらずに、ふんだんに使っています」の説明どおり、いずれもブルーベリーの存在感がどっしり。食べていると、「あ、ここにも、あそこにもブルーベリーが」と楽しくなってきます。いずれ果実が十分に取れだしたら、ジャムやケーキなども販売していくとともに、ラズベリーやブラックベリーといったほかのベリー類の摘み取りも考えたいと話します。



梅 木さんが農業の世界に飛び込んだのが8年前。結婚がきっかけでした。

「もともと自然が大好きなので、スッと入れました。虫が苦手とか、土で汚れるのが嫌とか、そんな抵抗はありませんでした」

グリーンツーリズムの広がりなど、ここ数年、農業プラスアルファの取り組みが注目を集めています。郡内でも研修会などがたびたび開催されており、そこでいつも見かけていたのが梅木さんでした。

「15年ほど前から植木用としているブルーベリーが家にあって、夏になると家庭用のジャム作りのためによく摘み取っていたんですよ。それがすごく楽しくて・・・」

農業という枠の中で、自分のやりたいことは何なのか。そう考えるうち、行き当たったのがブルーベリー。

「自分のやってみたかったことができ、農閑期の収入も見込めるし、いろいろな人と出会えるのも楽しみ」と期待が膨らむ一方で、「自分たちの思っていることが受け入れられるのだろうかという不安もあります」

二度、三度と足を運んでくれるお客さんを増やすために、新商品の開発を進めるなどの工夫をしていきたいと張り切っています。また、平日の集客を増やすための「お得なプラン」も検討予定。



目 に良いや成人病予防に効果ありとその機能性によく注目が集まるブルーベリー。取材の帰り、同行者の一人がふとこうつぶやきました。

「なんか本当に目が良くなった気がする。即効性があるなあ」

それはきっと、ゆったりと心の洗濯をしたからじゃないでしょうか。

BGMは小鳥のさえずりと風の音。いつもよりゆっくりと呼吸をしたくなる感じ。気分的かもしれませんが、視界だってクリアになるはず。

あらためて思います。短期間のうちに、九重町にこんなすばらしい場所がいくつもできるって、すごい。あとは、それぞれの農家が、どう自分たちで「ブルーベリー物語」を作っていくか。

「ブルーベリーを町に根付かせ、より多くの人を呼ぶには、植えた一人ひとりの意識を高める必要があると思います。市場出荷を考えている人、また、うちのように観光農園を考えている人など、どんな形でも良いと思います。そういう一生懸命な思いが町に根付き、ブルーベリー＝（イコール）九重町といえるようなまちづくりができれば、人は必ず集まってくると思います」



「九重産のブルーベリーが全国に広まっていくためには、食味と思っています。それは消費者がどう感じるかだけでなく、生産者が、こういうのがおいしいんだ、こういうのがいいんだ、という基礎になる部分というのかな。信念、ポリシーを持つことが重要です」

約14ヘクタールと作付面積では西日本一となったブルーベリー。

その大きな牽引力となった佐藤昌弘さん（滝上）は、「生産量が増えてくるこれからこそ本番」と表情を引き締めます。

食 味だけでなく、目などに良い機能性食品としても注目を集めるブルーベリー。日本で広まりだしたのは意外と新しく、ブルーベリージャムが店頭に並びだしたのは1970年代後半。最近では、もともと食物繊維の多い果実の中でも最高の含有量を誇ることや成人病に対する効果があるなど、ブルーベリーにとって、ますます追い風となる情報が発表されています。需要も伸びており、市場価格も、まず満足できるレベルに落ち着いているようです。

今でこそ多くの人を知るようになったブルーベリー。しかし、佐藤さんが植栽を始めた21年前はまったく違っていました。こう当時を振り返ります。

「結局、長野県から取り寄せたのですが、苗を探すのも大変でした。売る段になっても外国人の多い佐世保はどうかとかいろいろと考えましたよ」

ブルーベリーに注目したのは偶然。収穫期の空く初夏から夏の間にとれる良い作物はないかと、たまたま見ていた農業雑誌に載っていたことがきっかけでした。

「だから、これにけるんだ、というような気負いみたいなのはなかったんですよ。ただ、勉強はしましたね。鹿児島大学の先生に聞いてみたり、自分より10年位前から栽培している人に聞いたり」

いろいろと調べるうちに、九重町はブルーベリーが好むとされる酸性の土壌が多いなど適した場所だというのが分かってきます。最近では中国などからの輸入が増えてきているものの、日本産のものは甘味と酸味の幅が大きく食味に勝っているのが強み。佐藤さんも輸入品は脅威に感じないといいます。むしろ、寒暖の差が大きい九重町は、しっかりした食味のものを作ることができるので、他産地のものに勝ることだって可能と考えています。

ブドウと同じく、ブルームという白い

粉が実の回りについたのが、おいしいブルーベリーの目印。また、一粒、一粒食べるのではなく、いくつかまとめて食べると、甘みを強く感じるようになり、さらにおいしくなると教えてくれました。それに、ブルーベリーは出荷後、徐々に、酸味が薄れていくので、「九重町に来てでしか味わえない」という売り出し方もできるかも。

現在、佐藤さんは25アールのほ場に約700本弱を植栽。ほぼ全量を市場出荷しており、8割が生食用で、残りが加工用など。

「絶対に売れるとは思っていたのですが、きっかけは何なのか、それがなかなか分からなかったですね」

軌道に乗り始めたのは10年位前からだといいます。

九 九重町では2002年度から西日本一の産地化に向けた本格的な取り組みを開始。

「最初、聞いたときは、ちょっと遅いなって思ったのが正直なところですね(笑)」

佐藤さんがそう思ったのも無理はなく、当時すでに多くの産地がブルーベリーへ熱い視線を送っており、取り組むところも増え始めていました。

「ただ、それ以前に取り組んだとしても、県の技術指導体制が十分でなかったりしてうまくいかなかったと思います」

九重町が4年前にスタートしたのは必然だったというわけ。九重町の先駆者としての知識、技術力などがかわれ、ブルーベリー研究会では副会長を務めています。

「今は、ブルーベリー全体の上昇気運がずっと続いていってくれるといいなあ、と願っています。産地化されることで、ブランド化され、商品価値も上がってきます。それは、農家だけでなく、観光などの面でも大きな効果が出てくるはずですよ。これからは、ひとつ残らず成園を作っていくことを研究会として取り組んでいかなければなりません」

九重町では2008年度に全国産地シンポジウムの開催が予定されており、それに向けた動きも今後活発になってきます。佐藤さんは、昨年より、日本ブルーベリー協会へ理事として参加。2ヵ月に1回のペースで東京日帰り往復。任期は来年8月まで。

「協会ではブルーベリーに関して最高の人ばかりが集まっています。そこで出てきた情報をいち早く持ち帰り、研究会におろしていく役割があるし、もちろん全国シンポジウム成功に向けた仕組みづ

くりも重要な任務です」

粒 の小さいブルーベリー。根気があるのが摘み取り。あるデータによると、1日に摘み取る量は1万5千粒程度が限界といえます。同じように労力を要するのが、「取っただけの時間がかかる」といわれる選果。特に生食用は、粒の形がいびつなため、現段階では手作業に頼るしかないとか。梅雨時期の雨対策も頭を痛めるところ。雨風で実がこすられ、先述のブルームが剥けてしまい、商品価値が下がることもしばしば。また、ショウジョウバエやカミキリムシといった虫害には、どこの産地も苦勞しています。特にショウジョウバエは、発生が分かった時点で全量出荷停止。佐藤さんもほぼ毎年経験すると苦い表情で話していました。

「農業はまったくかけていないのですが、最近始まったポジティブリスト制度（→5ページNOTE）は農業全体の課題ですね。自分は山の中で作っているのでも問題はないのですが、他の作物と隣りあわせて作っている生産者は大変です」

好調な伸びを示す一方で、さまざまな課題も抱えています。ただ、これから収穫が始まるブルーベリーに生産者個人がどのように対峙していくのか。これこそが最大の課題だと佐藤さんは見えています。ブルーベリーは、接木などの技術を用いることで、さまざまな種類のものを作ることが可能。だからこそ、生産者が「自分はどのような風にしたいいのか」、つまり「どのような個性のある園を作りたいのか」という考えをしっかりと持つことの意味を強調します。冒頭の食味に対する考え方をしっかりと持つこともその一つ。

「ブルーベリーも他の作物と同じで、きちんと手入れをしてこそ、いいものができます。見るのが肥やし。出来た後も、たとえば九重町は摘み取り園が多いのですが、残ったブルーベリーをどうしていくのか。園同士の連携も必要になってきますね。また、運営していく上で、お客さんからいろいろな意見や情報が出てくると思うのですが、どう生かしていくのか。また、それを研究会としてどう吸い上げ、解決しより良いものにしていくのか。そんな仕組みづくりも必要になってきます。それに観光など他産業との連携をどのように取っていくのか。14ヘクタールという大きな力を活かすため、あらゆる面で、これからが本番です」



NOTE

ポジティブリストとは、農薬等の残留が基準以上ある食品の販売や流通を原則禁止にする制度（今年5月開始）。これまで残留基準があった農薬に加え、なかったものについても一律基準（0.01ppm）を適用。隣接するほ場への農薬飛散防止などが、生産者に対し、これまで以上に強く求められることになった。

佐藤昌弘さん

03 ブルーベリーは熱い

ブルーベリー研究会総会



九重ブルーベリー研究会（安部武己会長）の今年度の総会が6月15日に九重町役場であり、約50人が参加しました。同研究会は会員の相互研鑽などを目的に2002年に結成。現在、97の個人・団体が会員となっており、西日本一の産地化に向けた大きな牽引力となっています。

総会では、安部会長が、「九重のブルーベリーの産地化をすすめ、ブランド化していきたい」とあいさつ。昨年度の事業活動報告と、各種研修や市場動向調査

などが盛り込まれた今年度の事業計画について協議し、全会一致で承認されました。

九重町では、2008年に「全国産地シンポジウム」の開催が予定されており、同研究会のさらに充実した取り組みに期待が集まっています。

総会が終わっても、会場のあちこちから熱心に情報交換をする会員の姿が見られました（左写真）。今、確かにブルーベリーは熱い。

04 みなさんの取り組みに敬意

県知事への報告

ブルーベリー研究会など8人が、7月3日に広瀬勝貞大分県知事を訪れ、ブルーベリー作付面積が西日本一になったことを報告しました。

作付け推進に際し、2002年度から昨年度まで、苗やピートモス（土壌改良剤）などに対する補助を大分県がしてきた関係もあり今回の訪問が実現したもので、研究会会員はこれまでの活動や成果などを報告。広瀬知事は「みなさんの取り組みは大分県農業の見本。敬意を表します。このことは観光にとって大きい」と述べました。

3年前、坂本町長から「西日本一を目指す」と聞いた知事は「正直、本当かな」と半信半疑だったそうですが、この日、試食

したブルーベリーには、きっぱりと「とてもおいしい」「いくらでも食べられますね」と、にこやかな表情で「西日本一」を味わっていました。

知事は、今後重要な位置を占めるとされる流通対策への県の支援を約束。2008年に九重町で行われる全国シンポジウムについても「九重町を全国に売ることになるので、がんばってください」とエールを送りました。

研究会の一人は「知事の庶民的な感じが、とても好印象。自分たちも日の目を見た気がして、励みになりました」と話していました。



「夢」の農家レストランに、もうひとつの「夢」

鷺頭栄治さん×鷺頭洋子さん

そしてジャムの四品が準備されています。いずれも洋子さんが2003年、東京都青梅市にある観光農園ベリーコテージに研修に行き、その際に得た技術を元に作ったもので、友人に試食をしてもらいながら改良を重ね、完成。ただし、改良できずにいたことがひとつだけありました。

「自分のところでとれたブルーベリーが使えないことだけが不満でした」と洋子さん。これまでは九重町産と蘇陽町産のものを使用。しかし、今年から「べべんこ」に隣接した土地40アールに植栽した約700本のブルーベリーが本格的に実をつけ始めることから、この課題も解決しそうです。

ブルーベリーを植え始めたのが、5年前。最初の印象を洋子さんは「これはいけると、飛びつきました」。

当初は、洋子さんが司令塔で、夫の栄治さんが実働部隊でしたが、いつの間にか栄治さんが両方の役割をするように。とは言っても、二人三脚に変わりはないですけどね。デザートのほかも、もともと甘いものが好きという栄治さんが最終的な味チェックをするといいます。全体的にブルーベリーの酸味が生かされるように甘みを抑えているのが特徴。ジュースは1杯当たり100グラムのブルーベ

リーを使用。それをミキサーにかけるわけですが、これだけでは完成しません。そこには、「べべんこ」の企業秘密があり。口にしたときの、どっしりとした果実感は「飲む」というより「食べる」感じ。団体のお客さんが来たとき、誰か一人が注文して、それを試飲したほかの人も注文する、ということがよくあるそうです。

「ブルーベリーは品種によって味が違うので、ブレンドを作ったり、品種を指定してジュースを注文できたりする体制を作っていきたいです」と栄治さん。

メインの肉料理への活用も検討中。「ブルーベリーの魅力のひとつは、紫の色だと思うんです。状態の色によってひとつひとつ違って来る。それに、ブルーベリーは、花、実、紅葉と季節に応じて楽しむことができるのですが、葉の色もひとつとして同じものがないんです。それを料理に添えたりして楽しんでいきます」と洋子さん。今後、パン作りにも挑戦していきたいと話します。

作 付面積がついに西日本一になった九重町。生産量でも西日本一になる日は訪れるはず。ただ、作るだけでなく、どう売り込んでいくかが今後の大きなテーマになりそうです。

「待つだけではなく、お客さんに積極

的に出していくことです。いろんな料理にもちょっと添えるだけでも随分と違ってくると思います」と洋子さん。たとえば、生果実を冷凍するだけでも、おつなシャーベットになる。お客さんは、そういったところにも、うれしさを感じるはず。一方の栄治さんは、内から広めていく重要性を説きます。

「子どもたちにブルーベリーをわかっもらうために、学校給食に使ったり、摘み取り園に招待したり。そんなことから自然に広まっていくのがよいと思います」

夫 婦が農業を続けてきた飯田高原は、気候の関係でなかなか果実作りができないところでした。それだけに、夫婦にとって、ブルーベリーは、もうひとつの夢の形だったのかもしれませんが。ブルーベリーの魅力について、栄治さんは「果物には強い憧れがずっとありました。味も好きだけど、自分が作ったブルーベリーなんだという喜び、それ自体が魅力です」。

今年の夏。

「夢」の農家レストランに、もうひとつの「夢」が加わります。

06 ブルーベリーが実るのを心待ちにしています

佐藤智恵さん

ちょっと不思議なソフトクリーム。作っているのは、佐藤智恵さん（旭）。11年前からやまなみハイウェイ沿いにソフトクリームスタンドを出しています。注目は4年前から売り出したブルーベリーソフト。形は確かにソフトクリーム。口にすると、むむっ、シャーベットのよう。佐藤さんによると、通常材料となる牛乳を使っていないため、このような食感になるとか。ブルーベリーの存在がしっかりと感じられる味は、甘酸っぱくさわやか。

始めたのはたまたま。ひとところに比べ落ち込んだ販売量を補うため何かないかと考えていたときに、業者が薦めてくれたのがブルーベリーソフトでした。確かに飯田高原にはブルーベリーが良く似合う。佐藤さんもそう思っていたそうです。と、そのとき耳にしたのが「西日本一の産地化計画」。さっそく佐藤さんも、夫の義彦さんが中心となり、ソフトクリームスタンドのとなりの約10アールの土地に、約200本のブルーベリーを植栽。いずれは、ここからとれる果実を材料に新しいものにチャレンジしてみたいと考えています。

「早く使いたいと心待ちにしています。ブルーベリー産地西日本一を目指し、自分も何かできないかと、いろいろと研究しています」と佐藤さん。来店する観光客との会話も楽しみな様子で、町のブルーベリーに対する取り組みが話題になることも。

「景色のいい、水のいいところでブルーベリーを作ること自体がうらやましいってよく言われますよ。園のオーナー制度があるといい、という声もよく聞きますね」



「みんなが喜んで食べてくれたら、それでいい」と笑顔の佐藤さん。

05

「最初の材料の段階から自分たちで作っているのだから、お客さんからおいしかったと言われる喜びはひとしおです」

九重連山を見渡せる朝日台に、長年の夢だった農家レストラン「べべんこ」を開店して3年。鷺頭栄治さん・洋子さん夫婦（無田中）の充実した日々は続いています。

鷺頭さん夫婦は約100頭の肉用牛を飼育。せっかく苦勞して育てても、市場だけで、消費者の顔が見えない。そんな疑問を持ち続けていたことが夢を持つきっかけだったそうです。それだけに、ひときわこだわるのが地元産の材料を使うこと。肉だけでなく、コメも家でとれたものを使用。ミソや漬物も自分のところで作るそうで、「近い将来、100%の食材を地元から調達したい」と話します。

今ではリピーターも増えた同店。ステーキやコロケなどの看板商品によく合うのがブルーベリーを使ったデザート。一番人気のプリン、チーズケーキ、ジュース。



07 「実りの夏」到来

町内各地で「実りの夏」到来です。

本格的な収穫ができるようになった今シーズンから町内各地で続々と「摘み取り園」がオープン。最終的には18カ所が誕生しそうです。

この内、「釜の口ブルーベリー園」では、20種類約700本を植栽。丹精込めて作ったことが一目でわかる丁寧さが印象的。経営者の時松哲夫さんは笑顔で「みんな来て楽しんでくれるとうれしいです。ブルーベリーを介しての人とのふれあいができるのが楽しみ」。ほ場脇にはトイレと休憩所を建設中で、

いずれはジャムなどの加工品や苗の販売、育て方の講習等にも挑戦してみたいと話していました。

一方、町内最大規模の園もオープンです。九重やまなみ観光牧場内の「ブルーベリー・アイランド」（安部武己さん経営）では、2ヘクタールのほ場に24種4,000本を植栽。広大な草原の中にあり、絶好の雰囲気を楽しむことができます。同園の看板商品のひとつヨーグルトを利用した加工品も販売予定。こちらも期待。



ブルーベリーの魅力を存分に楽しむことができる「ブルーベリー摘み取りマニュアル」が完成しました。町と九重ブルーベリー研究会が協同で作成したもので、町内の「摘み取り園」マップをメインに、果実の収穫や保管の方法、加工品の作り方などが掲載されています。マニュアルは町内の観光案内所などに置かれる予定です。



▲開園前のブルーベリー・アイランドでは、カモがひと足早く摘み取り。



▲釜の口ブルーベリー園の時松さん夫婦



08 九重産ブルーベリー、とても良いです

小川幸彦さん

「本当にびっくりしました。こんなに良い果実だとは思っていませんでした」九重町産のブルーベリーをこう評価するのは、町田で菓子店「コンフェクショナリーおがわ」を営む小川幸彦さん。

ケーキづくりにとって、良い果実とは、風味と見た目。九重産のものはこの両方を兼ね備えており、粒も大粒。使い始めてまだ日が浅いものの、さっそく5種類のケーキ類を売り出しました。買った人の評判も上々です。特にブルーベリー生シューが人気とか。

「これまでもブルーベリーは業者から仕入れていたのですが、値段が高く、ばらつきも多かったです。そのため、ほんのちょっとアクセントに使う程度で、ブルーベリーを前面に出したものは売り出すことができませんでした。九重町産のものが増えることで、贅沢に使った品物を売り出すことができるようになりました」と小川さん。

イチゴの時期が終わると入れ替わるようにブルーベリーの果実が入りだすという商品構成上の利点も生まれました。収穫期にあわせて、生果を使ったケーキ類は夏季限定にする予定。もうひとつの主力商品のパンやまんじゅう。そして最近、全国的に人気を集めている生ロールケーキにもブルーベリーを使うため、試作を繰り返しています。

「ブルーベリーの魅力のひとつが強烈な色。しかし、焼いたときに色が出にくいんですね。これをどう出していくかが

課題です」

ショーケースに並んだケーキ類を見ると、「産地消」という表示があるのに気がきます。以前から、イチゴなどの材料を地元から調達していた小川さん。あえて、この表示を掲げだしたのは何かわけがありそうです。

「以前から、産地消には興味を持っていましたし、地元にあるものをわざわざ外経由で購入することにも疑問がありました。ただ、価格面で厳しくて使えないことも多かったのですが、やっぱり、地元産のものを使っていきたいと考えています。私たちからすると、少々原材料価格が高くなっても、それがブランド化されていれば、商品価格に跳ね返っても買ってもらえるものと思っています。だから、九重産ブルーベリーのブランド化には、期待しています。そのためには、生産者の意識を高めるのはもちろんですが、地元側も大いに食べるなどして、意識を高めていくことが重要です。どこかに行くときは、地元産ブルーベリーの加工品を持っていくとか。そんな地味なことからは始めるべきだと思います。もちろん、自分の店もその手伝いができたらと思っています（笑）」

地産地消は、「商品力」という点でも大変魅力のようです。小川さんのところでは、朝摘みの果実をそのまま使用。新鮮なブルーベリーだけが持つ、甘み、酸

味を生かすようにしていると話していました。

「それに、生産者の顔が見え、対話もできるので、安心して使えるのがいいですね」

生の果実をそのまま使うため、新鮮さと安全性を維持することを使う側としては求めたいところ。また、ブルーベリー自体がとてもいいため、ジャムなどの加工用に回すのはもったいない、と思うこともしばしばあるようです。

「使う量を見ると、餡（あん）やジャムといった加工品は大量になります。そうすると商品価格を高くせざるを得なくなります。そのために、出荷段階で加工用と生食用を分けて、加工用はもう少し安くしてもらえると助かるなあ、とは思います」

九九重産ブルーベリーの魅力を知った小川さん、さっそく知り合いのお菓子屋さんに紹介するなどしたそうです。

「ブルーベリーというのは清涼感があり、九重のイメージにとってプラスだし、とてもよく似合っていると思います。食卓や学校給食に普通にのるくらい普及してほしいです。町にとって、ブルーベリーがブルーダイヤモンドになるように願っていますし、私がサッカー好きということもあるんですが、町中がブルーに染まるようになるといいですね（笑）」

09 ブルーベリー産地化 私たちにできること

玖珠農業高校

玖 珠農業高等学校食品化学科・食品製造研究班の生徒7人が、ブルーベリーの加工品を開発。6月17日にトキハインダストリー玖珠店（玖珠町）で販売をしました。

2個入りのパン200袋（一袋80円）や300ミリリットル入りのジュース30本（1本900円）など用意した品物は、2時ごろには売り切れ。買った人からの反応も上々の様子です。

同 校では2002年度より県の要請を受け、玖珠郡に適したブルーベリーの品種選定試験をするために5アールのは場に42品種154本のブルーベリーを植栽。その結果、冷涼な気候で酸性土壌が多い玖珠郡はブルーベリーの生育には好条件で、特に九重町は耐寒性の強いハイブッシュ系の品種が適していることが確認されました。

同校では、同時にブルーベリーを使った加工品の開発も進めており、パンとジュース、それに乾燥果実をまず考案。昨年から市場テストを繰り返し、そのつど課題を克服。完成度を高め、商品化できる段階までこぎつけました。

今回の販売は、トキハの呼びかけにより実現したもので、月1回のペースで3ヵ月間販売。同校では、消費者の反応や材料の調達をめどなどの環境を考慮しながら、それ以降の対応を考えるとしています。

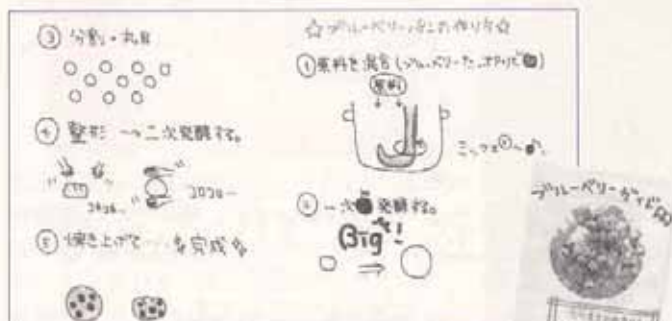
パンは、粉1キロ当たり乾燥ブルーベリー約50グラムを混ぜ、焼き上げ。果実に含まれる酸の影響で、小麦粉だけではイースト菌の発酵が進まないため、郡内産の有機玄米の粉を混ぜたところ、発酵が進んだだけでなく、食味も向上。甘酸っぱい味がしっかり残った風味のよいパンが完成しました。ジュースは、色素（アントシアニン）がなるべく出るように気を遣いながら加熱処理し作った原液を布でこすという原始的な方法で作成。果汁100%のジュースは濃厚でありながら、喉ごしさわやか。果実の旨みが丸ごと液体になった感じで、満足感の非常に高いジュースとなっています。ただ価格が高いのが難点。原材料となる果実は、まとまった量が確保できないため、熊本産のものを使用しており、今回の価格がぎりぎりの採算ライン。今後は、地元産のブルーベリーを使い、地産地消の一翼を担うのが、玖珠高の考えで、担当教師の田尻吉崇さんは「生産量が増えていくことを期待しているので、九重のブルーベリーには相当期待しています」。

また、消費者の健康志向などからトキハインダストリー玖珠店でのジュースをはじめとしたブルーベリー加工品の販売は好調。安全・安心志向の高さから地元産品にも人気が集まっており、店長の権原哲二さんは「我々も一緒になって九重のブルーベリーを盛り上げていきたいですね」。

玖 珠高では、郷土料理やスローフード運動（→NOTE）などの研究を行い、さまざまな食のあり方を地域に発信していきたいとしており、ブルーベリーを使った加工品もその中に位置づけたい考え。

「スローフードや郷土料理と、かけ離れたところにあるのではなく、その中にある。そんな開発をしていきたいと考えています」

ブルーベリー産地化が進む中で、地元農業高校としての役割の追求が続いています。



▲当日配布した食品化学科制作の「ブルーベリーガイド」から

NOTE

スローフード運動とは
インスタント食品をはじめとした大量生産・大量消費で画一化されたファストフードに対抗するものとして、1980年代のイタリアで始まった運動。1. 消えゆく恐れのある伝統的な食材や料理を守る。2. 質のよい食材を提供する小生産者を守る。3. 消費者の味の教育を進める。の3点が基本。最近では「地産地消」とともに、地域の食文化見直し運動のひとつになっている。

「推 進段階で、九重町で既にブルーベリーを植えていた先進農家が、ブルーベリーに対する自信みたいなものをはっきりと言い切ったんですよ。〈ブルーベリーは夏のボーナスです〉 こうしたモデル農家が町内にいたことが、関係機関や生産者にも大きな励みを与えてくれましたね」

西日本一のブルーベリー産地を目指した動きが始まったのが5年前。そのきっかけを作ったのが大分県玖珠農業改良普及センター所長（当時）だった吉野賢一さんでした。

「食べるにしても種と皮をそのまま捨てるところがなく、果実は健康に良く、食品としての加工適正も優れています。さらに九重町の観光客は、湯布院より多い年間約500万人。観光摘み取り園も出来るし、花や葉も景観作物として楽しめる。なんと言っても、九重町の土壌条件はブルーベリーに適している。こんな非の打ち所のない、良いことづくめのブルーベリー。実は赴任する前から九重町には最も適している、と確信していました」 さっそく町に呼びかけるも、ごくごく最初のうちはいまひとつだったようです。しかし、視察研修などを繰り返して、ブルーベリーについての知識が深まるにつれ、町も、その可能性に確信を深めていきます。決断は早かったようです。2001年12月には「振興計画」を策定。それを大分県がバックアップする形で、西日本一の産地化に向けた動きがいよいよ本格

化していきます。2002年6月には九重ブルーベリー研究会が誕生。

「最初に取り組んだ生産者が、地域の誰もが認める意欲的な農家だったのも良かったと思います。ブルーベリーの輪を町内全体に広げる強力な推進役をしてくださいましたし、町も、ずっと気迫をもって取り組んでいました。行政だけがいくら旗を振ってもここまではできなかったと思います。生産者、町、県のトライアングルがうまく作用したのです」

吉 野さんは2003年に大分県を退職。その後JICA（国際協力機構）の「シニア海外ボランティア」で南米のパラグアイに飛び、そこで地域産業の振興に携わり昨年、帰国。NPO法人・大分一村一品国際交流推進協会を経て、今年の春からは大分農業文化公園（杵築市）で果樹の栽培や植栽に関する総括をしています。どこにいようと、ずっと九重町のブルーベリーを見守り続けてきた吉野さん。本格的な収穫が始まった今年、生産者にこわれ、呼び戻されるように、その姿を再びほ場で見かけるようになりました。すっかり成長したブルーベリーに目を細めながら、九重町のブルーベリーのこれからについて熱く語ります。

「ブルーベリーを町の産業として、町の特産品として発展させることが大事になってきます。そのためには、町民自身にも目を向けてもらうこともいいですね。

たとえば、町民に各自で庭にブルーベリーを植えてもらうのはどうでしょうか。自分の家で春は可憐な花を、秋は紅葉を、収穫した果実はジャム等に加工したりして家族で楽しむことができます。町の特産品として住民一人ひとりの理解と認識が得られると思います」

一見、この考え方は、生産量が増えてくるわけだから、生産者にとっては不利に思われるかもしれませんが、それ以上に住民全体の意識が高くなることの方が効果は大と吉野さんは見えています。まさに町民一人ひとりがブルーベリー情報の発信基地。

「中には小鳥に食べられるようなところもあるかもしれませんが、変な言い方かもしれませんが、環境に優しいブルーベリー、小鳥が訪れる我が家の庭もすばらしいと思うのもいいじゃないですか」

「九重町のブルーベリー」のイメージを確立し、町のイメージアップにつなげてほしい。アイベリーブルー（目に優しい紫の小果実・愛する紫の小果実）な果物として、「町の顔」になることができると吉野さんは言います。

「毎年1万5千トンもの輸入品がある中で、国内産の安心・安全を売りに供給できる産地の強みをアピールしていかなければなりません。町も14ヘクタール達成で産業振興を終わらせるのではなくて、ブルーベリーを核にして、攻め続けていく姿勢を持つことが大切。第2次・3次の振興計画を立て、面積も20、30ヘクタールと増やし、日本一のブランドを目指していくべきです。既にこれまで商品開発されたワインやジャム、観光摘み取り園の開園などがそうだったように、これからも、攻めているところに新しいものができると思います。それに、町の意気込みは、生産者のおおいなる励みにもなっています」

町 の内向きには生産組織の強化や生産者の栽培技術の向上、外向きには情報発信。このほかにも流通体制の整備や、「第2のトマトケチャップ」となるべく、加工品開発などもJAをはじめとした関係機関には、これから求められそう。観光や商工業者との連携も気になる場所。

「もちろん、これからたくさん課題も出てくるでしょう。だから、広報このえも、しぶとく取り上げてくださいますよ（笑）」





10月末にオープン予定の九重“夢”大吊橋。歩道部分が完成し、6月6日に一足早く「渡り初め」をしました。

「これに高さ1.3メートルの手すりと柵をつけ、工事用足場などを除いたら完成です」と現場責任者。ということは、現実にかかなり近い「渡り心地」を味わえるはず。参加したのは地元新聞記者や町関係職員など6人。4月に工事用足場キャットウォークを渡ったとき（5月号掲載）とほぼ同じメンバーです。

前回と同じように、ヘルメットと命綱を装着し、橋のたもとへ。そして、いよいよ第一歩を踏み出すと、一斉に「ぜんぜん怖くないですね」。キャットウォークのときは雲泥の差。まず考えられる理由が「揺れないこと」。たまたま、風や工事の加減で揺れることがあるものの、体感的に感じるのは、地震の震度1、または穏やかな海へ出る前の船の中ぐらいの感じ。決して恐怖心をおおるものではありません。

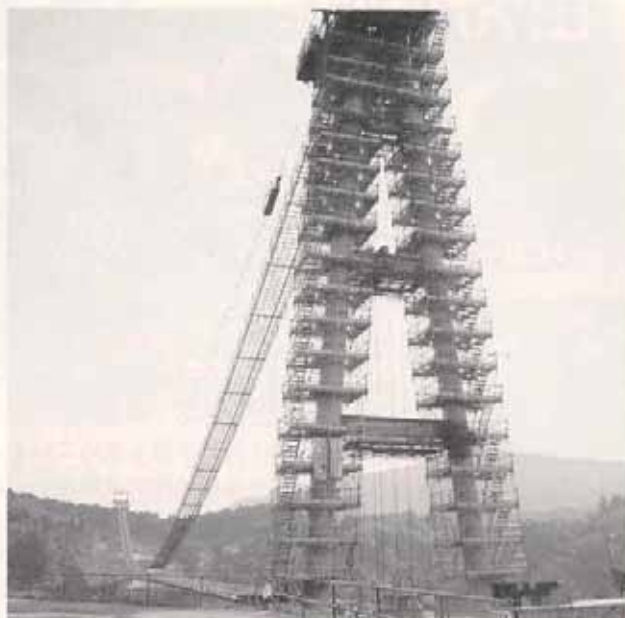
また、キャットウォークでは足元に「まっぼしに」見えた170メートル下の谷底が、網状ではあるものの、立ち止まってじっくり見ないと谷底がのぞけない歩道に変わっていたのも大きかったようです。

工事担当者によると、65キロの人が2000人載っても大丈夫な構造計算がされており、兩岸に建つ鉄塔（43メートル）には、合わせて400トンの比重がかかっているそう。実際には1000人程度に制限する予定で、“夢”大吊橋にどっしりと抱かれながら、景色を楽しむことができそうです。



南には、「日本の滝100選」に選ばれた落差83メートルの激動の滝やくじゅうの山々、北には九酔渓谷。オープンする秋には、何万という人々を、紅葉で酔わせることでしょう。

“夢”は揺るぎません。安心して楽しんでください。



“夢”は揺るがない 一足早く渡り初め

500円で“夢”体験

九重“夢”大吊橋の通行料金が中学生以上500円、小学生200円になりました（小学生未満は無料）。6月21日に開催された6月定例議会で承認され決まったもので、駐車場料金は無料となりました。



みんなの“夢”をここで 大吊橋物産直売所



“夢”大吊橋の傍らで、もうひとつの夢実現に向けた取り組みが始まっています。

大吊橋周辺に設けられた物産直売所（木造鉄板葺平屋建・158.99㎡）の指定管理者が、町内の商店経営者などで構成する九重鳴子物産株式会社に決まり、オープンに向けた準備が急ピッチで進んでいます。

指定管理者とは、これまで公共的団体などに限られていた公の施設の管理を民間事業者もできるようにしたもので、九重町では初めてのケース。民間のノウハウや経営手法などを活用することで、効率的かつ、より質の高いサービスが提供できることが期待されています。

町では、今年の4月中旬から事業者を1ヵ月間公募。審査の結果、同社に決定し、6月定例議会で指定の承諾を受け、6月30日付けで両者間で協定書が締結されました。

代表の甲斐良一さんは「今あるものはもちろん、これまであまり知られることのなかった地元産品を取り上げていくなどしながら、地域に貢献できるようにしていきたい」と抱負を語りました。地元産品のブランド化推進も大事な取り組みのひとつ。公認シールの導入なども検討したいと関係者は話していました。

同社では、物産直売所で働く人を若干名募集するほか、地元産品の出品も新聞折込広告などを通じて広く呼びかけたいとしています。

田んぼは、



過去と未来へのタイムマシン



トキの住めるような環境をめざして、住民の間の連携がぐんぐん強まっています。

飯田地区で、昔ながらの農法を用いたコメ作りが始まりました。

来年春開校に向け準備を進めている「セブン—イレブンみどりの基金九重ふるさと自然学校開校準備室」の呼びかけにより集まった「トキ子ども大使」が中心に取り組んでいるもので、5月28日には田植えがありました。「かせいにきてください」とチラシを作り呼びかけたところ、地元老人クラブ白鳥会や小学生、さらには京都からグリーンツーリズムで町を訪れた女性も飛び入り参加、26人の賑やかな田植えとなりました（この列一番上写真）。



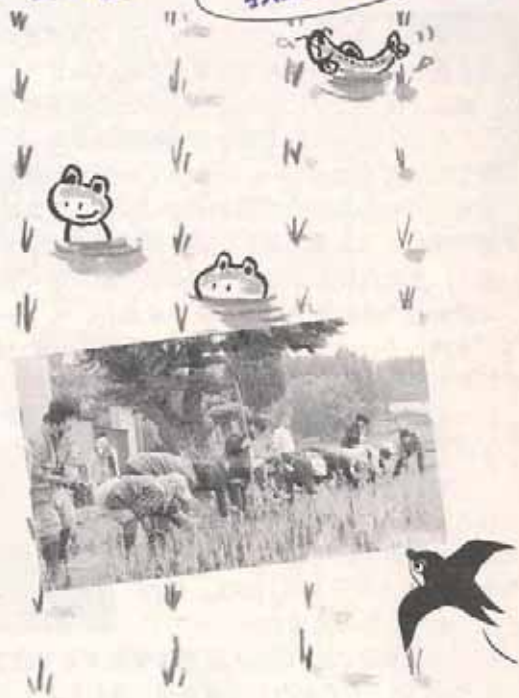
もちろん、田植えも昔ながらの方法で。といきかたかたのようですが、代かきは、農耕用の牛がいなかったもので、それだけはトラクターで。あとは昔どおり。苗を運ぶ道具もこの日のために複製しました（左写真）。飯田地区では、温泉を使った「湯苗代」で苗作りをするのが、昔ながらのやり方。あらかじめ子ども大使によって作られた湯苗を、参加者は横一列になって植え始めますが、若い人にとっては、ほぼ初体験。手際よく植えていく高齢者に目を丸くしていました。

農繁期の朝は早い。スケジュールも昔ながらにこだわりました。朝7時田植えをした田んぼとは別の場所にある田んぼへ湯苗取り。その後、田植えて、10時過ぎに「こびる」。昔は、朝5時ごろから田植えをしていたそうで、重労働のため、我慢できないほど空腹になるのがこのころ。そのときに出されるおやつが「こびる」。今のより一回りは大きいモチを、男性は3つ、女性は2つ食べたそうです。また、このモチには冷えた手を温める役割（手ぬくめ）もあったようです。参加者全員が「こびる」を楽しみにしていた様子で、このときはひととき賑やかに、「何十年ぶりかです。楽しくてしょうがない」と高齢者の間では昔話に花が咲いていました。そんな高齢者の活躍により、田植えは順調に進み、午前中で終了。午後は40センチ四方のコドラートという枠を作り、その中に生息する昆虫などを観察しました。



今回の田んぼは、町内で有機農法に取り組む「ひこばえ」の指導を受けながら米ぬかなどを用いながら、農業の使わないコメ作りをすることになっており、隣接する田んぼで取り組まれているアイガモを使ったコメ作り（→右開き記事参照）との比較を行うほか、月1回のペースでそこに生息する生物も観測することになっています。

自然学校準備室では、今年も「トキ子ども大使」を募集するほか、畑を使った体験学習も計画。地域との連携をさらに深めたいとしています。



今日は田んぼが教室

飯田小学校4、5年生による田植えが5月25日に、同校の近くにある中村隆さんの田んぼ（10アール）で行われました。



学校ごとに特色ある教育活動を行う総合学習の一環として行われたもので、地域の高齢者から水田武さんをお願いし、先生になってもらいました。横一列になって、田んぼに張られた「田植え網」をガイドに苗を植えた児童は、めったに経験できない泥の感触に、「とっても気持ちよくて、おもしろい」と歓声をあげていました。

今回の田んぼは、「セブン—イレブンみどりの基金自然学校開校準備室」の呼びかけで集まったトキ子ども大使も参加して、コメ作りをすることになっており、アイガモを使った無農薬栽培に挑戦。稲の生長具合やそこに成育する昆虫などを観察する一方、夏の草取りを経て秋には稲刈りを行います。ちょっと気になるアイガモは、「食べる」そうです。

「農家の人の苦労や収穫の喜びを味わってもらえれば」と同校教師。隣接する田んぼ（10アール）では、トキ子ども大使が、有機農法によるコメ作りもすすめており（左記事）、両者の比較も楽しみです。

まるごと囲んでイノシシをシャットアウト



共助

東飯田中須地区で、集落内の農地約15ヘクタールを高さ120センチ、総延長5キロで囲むイノシシ防護柵が完成。6月13日に、同地区公民館で「泥よこい（田植え休み・サナボリとも）」を兼ねた完成祝賀会が行われ、約30人が参加しました。

同地区は、稲作を中心にトマトなどの野菜作りや畜産が盛んなところ。しかし、毎年出没するイノシシに頭を悩ませ続けていました。特に好物とされる飼料用トウモロコシの被害は深刻。水田もひどい場合は3割程度の収穫減になることもあったそうです。

このため、同地区では、中山間地域等直接支払制度を利用し、16戸が参加した集落協定を昨年9月に締結（代表は岩下哲男さん）。協定には若手グループを育成しながら集落営農を進めるなどを盛り込んだ「マスタープラン」が掲げられており、その目玉となるのが今回の防護柵。

今年2月に着工し6月に完成した防護柵の総工費は約1,000万円。農地への進入は途中50ヵ所に設けられた扉を利用することになります。



「これだけの規模の防護柵を作ったのは初めて」と工事担当業者。イノシシの害は生産者にとっては精神的痛手が大きかったことから、「イノシシから防護できるという直接的効果だけでなく、農業に対するやる気がさらに高まる間接的効果も高い」と関係者の一人は話していました。

今後は、イノシシが柵内に入ってこないように、進入用扉の開け閉めを確実にすることも事業成功への秘訣となりそう。このほか、中須地区では集落協定期間中（5年間）に機械の共同利用や耕作放棄地の発生防止にも取り組むとしており、より強靱な集落営農体制をめざします。

中産間地域直接支払い制度は、取り組むべき農業生産活動などを盛り込んだ「集落協定」の締結を行い、国・県・市町村から集落と耕作者に、協定農地の維持管理費用が支払われるもの。昨年度、町内で協定が結ばれたのは47集落（5,715万円）。



園児も
気になります、
田んぼのこと



春から秋にかけて、話題の中心によくなるのが、田んぼ。園児たちだって負けていませんよ。

5月25日、南山田こども園の田植えが川東にある財津さん宅の田んぼで行われました。参加したのは3歳から5歳まで約50人。年齢ごとに田んぼへ入り、横一列になって苗を植えました。園児たちは、この日をとても楽しみにしていた様子で、泥だらけになりながら「おもしろい！」と歓声をあげていました。また、コメ作りにも興味津々。さっそく次の日には、給食に出てきたご飯を囲んで、「こういう風になるんだねえ」と話題になったそうです。

同園では、今回の田んぼと同時進行で、バケツを使ったコメ作りも実施。バケツの中と園から見える自分たちが田植えをした田んぼ、両方の稲の成長具合をみるのも日課になっていると関係者は話していました。園児たちも話題の中心は田んぼというわけ。秋には手刈りにより稲刈りの後、収穫祭をし、新米を味わうことになっています。



小学校も
農繁期

「農業の苦勞や喜びを体験することで、食べ物を大事にする気持ちを持ってほしい」

そんな願いを込めて、町内の各小学校では総合学習の一環として、コメ作りを取り入れているところが増えていきます。南山田小学校も数年前から取り組んでおり、今年も同校5年生の田植えが5月30日に、陣の内にある、児童の保護者の田んぼで行われました。

参加したのは18人。ほとんどが初めての経験らしく、最初は泥の感触に「気持ち悪い」という児童もちらほら。しかし、すぐに慣れ、テキパキと田植えをこなし、30分ほどで終了。「もっと、田植えをしたい」という声が大半を占めていました。

同校では、草取りをしながら秋の収穫に備えることになっており、秋には稲刈りと架け干し、そして新米で餅つき。年末には、残ったわらでしめ縄づくりをします。田んぼの恵みを無駄なく活用。児童たちはきっとたくさんのおいしいお米を田んぼから得るはずですよ。



自分の持っている技術・知識を
発展途上国の人々のために生かす
「青年海外協力隊」で、高橋美帆
さん（中村上）が日本語教師とし
てジャマイカへ派遣されることにな
りました。

同隊は1965年の創設以来、
延べ25,000人の若者が参加。
現在でも約70カ国に2,500人
が医療・福祉や農業、学校教育、
文化といった分野で活動を続けて
います。

高橋さんは、現地にある西イン
ド諸島大学で日本語コースを任さ
れるほか、日本語の教育環境を整
備するという役割も課せられるよ
うです。同大学は国際的に非常に

高い評価を受け、外国語教育にも
力を入れているものの、日本語教
育に関してはまだ十分であ
りません。「授業用の教室をとる
だけでも一苦労する」という事務
面をはじめとした管理運営システ
ムの改善だけでなく、フランス語
やスペイン語といった他の言語学
科に比べ、位置づけが低く設定さ

れている日本語教育の環境改善を
求め大学と折衝することも大きな
仕事になりそう、と高橋さん。
「日本語コースは、以前2人の
教師がいたのですが、今は1人に
減らされています。その1人体制
を引き継ぐのが私です。いずれは
2人に戻すようですが、日本語コ
ースを維持すること、それと、単
位制度の改善など日本語が他の言
語に比べおかれている不平等な位
置づけを改善していくことがテー
マになってきます。それに、現地
ジャマイカ人の日本語教師を育て
るための種をまいていきたいです」
今回、ジャマイカに派遣される
協力隊員は高橋さんを含め5人。
しかし、日本語教師は高橋さん一
人。多忙な日々になりそうです。



▲6月20日に町長へ出発前のあいさつ

どこの国にも
おもしろさはある。
みんなそれぞれ
楽しく生きている。

青年海外協力隊に参加する 高橋美帆さん

高橋さんが日本語教師をめざそ
うと思ったのが、7年前。グアテ
マラへ留学していたときでした。
「そのときメキシコの大学にも
行ったんですが、そこで日本語を
学ぶ学生に会って、そこで日本語を
加したことがあったのですが、と
ても悔しかったことがあったん
ですよ。日本語の構造などを聞かれ
ても答えられない。自分が日本語
を知らないということに気付いた
んです。それに授業がなまってい
るのもショックでした（笑）」
もともと私は言語オタクと笑う
高橋さん、言語をシステムティク
（体系的）に捉えるのが好きだ
ったこともあり、日本語教師とい
う仕事に興味を湧き、帰国後に資
格取得。以来約4年間、中国など

で働いてきました。
「学生はみんなゼロから始める
ので、私の教えたことをそのまま
吸収し、上達していくわけですよ
ね。その姿を見るのがとてもうれ
しいです」
いずれは日本へ帰り、働くこと
を希望しており、今回の派遣も持
来の自分にとってプラスになるよ
うにしていきたいと話します。
治安の面などで少々心配がある
ものの、高橋さんに海外で仕事を
するという不安はあまりないよう
です。すでに多くの海外生活を経
験していることもあり、取材時
に手にしていた小ぶりのリュ
ックをひよいと肩にそのまま海外
へ行くような、そんな、いい意味
での気負いのなさを感じるのも印
象的。
「日本も世界もあまり変わらな
い。どこに行っても、そこに慣れ
ているかどうかの違いに過ぎない
んじゃないかなあ、と思います」
途上国より九重町の生活のほうが
不自由なこともあるし、逆もある。
どこの国にもおもしろさはあるし、
みんなそれぞれ楽しく生きている
っていうことですね（笑）。ただ、
飯田は世界的に見ても美しいです。
もちろん、偏見なのかもしれませんが、
でも、みんなも偏見を持って
自分のふるさとを愛してほしいと
思います」
ジャマイカは、日本から見ると
ちやうど地球の裏あたり。高橋さ
んは6月28日に出発。2年後に帰
国です。



夫の晴夫さんと一緒に



花があっても
なくても、
楽しい。
見るだけで、
いつも楽しい。

武石房子さん

「あそこのサツキはすごい」。
町内のサツキ愛好者からそんな
情報が入り、訪れたのが武石房子
さん宅（前住）。高さ1メートル
ほどのサツキの木が懸崖（幹や茎

が根よりも低く垂れ下がった盆栽
状態に面した斜面、幅4メート
ル・長さ30メートルにわたってび
っしり埋まっています。その様は、
じゅうたんのような。

一本の木から、赤や白、ピンク
など色とりどりの花が出るのがサ
ツキの魅力。取材した日は、約半
分の木に赤などの花を見ることが

できました。全部で1000本以上。
そのうち約半分はサツキと同じツ
ツジ科の「ヨドガワツツジ」で、
サツキより花の咲く時期が早く4
月下旬から。サツキが5月から6
月にかけてなので、武石さん宅で
は約2ヵ月間、花を楽しむことが
できます。
「サツキは生きがいですね。夜
中に起きて見ることもあります」
と武石さん。
気がついたときに、こまめにせ
ん定するのがうまく育てるコツ。
そのせいか、葉の色艶がよく、木
にも勢いがあります。武石さんも
庭師にほめられたことがあるとう
れしそう。近頃では、規模が大き
くなったため、夫の晴夫さんと二
人がかりで手入れをしなければな
らなくなりました。
「花もいいのですが、葉っぱも
美しいのが、サツキのよさだと思
います」と、花盛りよりも、その
前（5分咲き）のほうが花と葉の
鮮やかさ両方が楽しめて見ごろと
いうのが夫婦の共通意見。

武石さんがサツキを植え始めた
のは40年前。始まりは、とりの
家から運ばれてきた5センチほど
の小さな苗1本。それがここまで
大きくなるとは、びっくり。
「自分の生まれた家が、ツツジ
とかがたくさん植えられていたん
ですよ。そういった昔の記憶があ
ったからでしょうか、花が好きで、
ここをサツキでいっぱいになりたい
なあと思っていました」と当時を
振り返ります。

武石さん宅はシイタケやトマト、
コメ、肉用牛に取り組む専業農家。
休みはほとんどなく、多忙な日々
です。そんな中、時間を見つけて
はサツキの手入れ。これに書道や
絵画も以前は取り組んでいたとい
うから、驚きです。時間がないか
らこそ、いろいろできる。武石さ
んのケースも当てはまりそう。
「最近、ますます時間がなくな
って、書道と絵画は休み中です。
年取ったら、どんどん忙しくなっ
てきて、やりたいことがいっぱい
です。もっと楽になっていいはず
なのにねえ（笑）」
サツキの咲く時期もちょうど農
繁期の真只中。そんな中、夫婦
は「いいねえ」と言い合っている
と笑います。

「でも、花が咲いても、なくて
もいいんです。一年を通してツツ
ジ（サツキ）の木の緑が気に入っ
ているんですよ。一年中、木を見
て楽しむのが好きです。それに、
手をかけて育てるところなんか、
子どもと一緒、いつも楽しいです」

自助 共助

自律のまちづくりに向けて、
「自助」・「共助」に該当する
取り組みには、このマークを
つけています。

新しい “ふるさと”が完成

SCRAP



2003年度から進めていた恵良住宅の新築建て替え工事が完了、6月2日に約50人が参加し落成式がありました。

同住宅は1970年から77年にかけて建設されたものの、老朽化が進んだ上、現代からすると住宅規模が小さいため、建て替えが決定、03年度に第1期工事（1号棟）が完成、同じかたちの住宅をもう一棟建設する第2期工事が翌年スタートし、今回すべての工事を終了しました。総工費は約8億6千万円。

新築となった住宅は地元木材をふんだんに利用、全国的に珍しい木造3階建てで、1号棟、2号棟合わせて48戸が入居、既に入居した人は満足した様子で「空気がおいしく、木の香り、ぬくもりがある。夏涼しく、冬は暖かく、住み心地がとていいです」。

また、太陽光発電で共用部分の電力をまかなうなど、自然に恵まれた町にふさわしい環境に優しい住宅となっています。さらに敷地内に公園を設置したり、バリアフリーにしたりするなど、住み人にとっても優しい住宅、恵良住宅区長の齊藤長徳さんは「大事に、大事に使っていくとともに、子どもたちにとって、ふるさとになれるような団地づくりをしていきたいです」と話していました。

SCRAP

再会を約束して



障がい者と健常者の交流の場「コスモスの集い」の、コスモスの苗植えが5月30日に東飯田小学校で行われました。

同会は、障がいがあってもなくても地域で安心して、楽しく生きがいを持って生活し、社会参加できることを目的に、「倒れしは倒れしままに、折れたるは折れたるままに、「コスモスの花」という言葉から「コスモスの集い」と名づけ、2000年度に活動開始（現在の会長は小山卓郎さんで会員数は約40人）。スポーツ大会や日帰り研修など1年に6回程度の活動を行っており、重度障がい者の社会参加促進の面でも大きな実績をあげています。

この日は、東飯田小2年生18人も参加し、総勢約60人で400本の苗を植えました。「コスモスの集い」会員の小田京子さん（写真）は、「今日はいい天気になるように願っていました。母校だから、より子どもたちに親しみが湧いて、かわいいです」。当日は小田さんの願いがかない、晴天。楽しそうに参加していました。苗は会員の家族が育てたもので、白、ピンク、濃いピンクの3種類の花を秋に咲かせます。コスモスの集いの小山会長は「手入れをしっかりして、花が咲いたときは鑑賞会を楽しみにしています」。一方の東飯田小の穴井房代校長も「交流で学ぶことはたくさん。コスモスを大事に育て、秋にはぜひ鑑賞会を」と、再会を約束しました。

コスモスの花言葉のひとつが「調和」。障がい者と健常者が調和する社会を願って、「コスモスの集い」では会員を募集中です。お問い合わせは保健センター（☎76-3838）まで。

7月のハーブ降る♥JUNON

一年生からの手紙

私は町内の小学校に勤務しています。勤務する学校の高学年の子どもがあることからけがをして入院してしまいました。明るく元気の良い子どもだったので、周りのみんなが心配し寂しがっていました。学級のみんも早く元気になってほしいと手紙を書いたり寄せ書きをしたりしました。そんな時、ある一年生が「ほくも〇〇ちゃんに、お手紙を書きたいから先生持って行って」と話しかけてきました。日ごろ関わりがあまりないように思っていたのですが、よく話を聞いてみると、「いつも遊んでくれて楽しかった」ということでした。

「ありがとっ、よく書いてくれたわ」と言っと、お母さんと一緒に封筒を渡すことやら早く元気になって帰ってきてほしいことなどを書いたと、矢張り早に話してくれました。

すぐにその手紙を持って病院へ届けると、けがをした子どももうれしそうに手紙とてながめていました。今では退院して元気に遊んでいます。また、いつもと変わらない学校の生活が営まれています。手紙を送ってくれた一年生との関わりも以前より深まっているようです。

子どもたちのつながりは大人が考えるよりも自然にできて、なんともほほえましいものだなあとあらためて思いました。

次の日の朝、玄関前にはかわいい封筒に入った手紙をしっかりと持った一年生が待っていました。私を見つめるなり、「先生、手紙書いたよ」とかけよってきます。このころの一年生といえは、ひらがなの学習をしている真只中です。選ったばかりのひらがなを使って書いた手紙には、一年生の優しさがいっぱい詰まっている気がしてなりませんでした。

伝えたい「ちよっといい話」「心あたたまる話」をぜひお寄せください。町内各所に投稿用のボックスを設置していますので、そこに投稿するか「ハート降るここ」のえいメンバへご連絡ください。

連絡先 佐藤明郎
（☎76-12526）
郵便の場は次のように入
〒879-1489
九重町役場企画調整課
広報グループ

気軽に声をかけてください



ポニーと一緒に旅の途中？
見かけた人の中でちよっとした話題になっています。
最近、町内で、ポニーを連れて歩いている若い男性2人を時々目にするようになりまし
た。
正解は、旅ではなく散歩。男性は、飯田にある乗馬施設・エルランテ・ヨグランダの吉田裕章さんと茂山哲さん。一緒に歩くポニーの名前はシバちゃん。同施設で観賞用として飼われているもので、「あまり動かないので、体力づくりが必要」と散歩を思いついたのがきっかけ。週に1回程度、九酔溪経由で国道210号線に出て、玖珠町塚脇にあるスーパ―を折り返すコース。5時間はかかりませんが、散歩途中で声をかけられることもよくあるそう。二人は「ロバですかって言われたこと
もあるし、旅と間違えられたこともありま
す(笑)。ただ黙々と歩くだけなので、いろ
んな人から声をかけられるのは、とてもうれ
しいです」。
散歩の日は、シバちゃんもうれしそうな様
子とか。
もし、見かけたときは気軽に声をかけてほ
しいそうです。

丈夫な歯でいつまでも

歯科保健の普及向上などを目的に「歯の健康まつり」が6月4日にトキハイスタストリー玖珠センター(玖珠町)で行われ、約150人が訪れました。
開会行事で吉武勝玖珠郡歯科医師会会長は「歯をきちんと磨くことで、歯の病気と歯周病はある程度防げます。子どもの頃から歯磨きの習慣をつけ、丈夫な歯でいつまでも健康を」とあいさつ。「歯の衛生図画ポスターコンクール」(入賞者12人うち九重町5人)や「母と子のよい歯のコンクール」(同14組うち九重町2組)、「高齢者のよい歯コンクール」(同5人うち九重町1人)各入賞者への表彰状授与が行われました。
まつり会場では、歯の衛生図画ポスターの展示や歯科相談などが行われたほか、来場者には口腔ケア用品が配布されました。

News



Scrap book

各分野から寄せられた二コースを集めました。

SCRAP



図画ポスターコンクールで優秀賞を受けた松岡舞々さん(准園小1年生)

SCRAP たくさんのイチゴに、幸せ



飯田こども園のイチゴ狩りが5月29日に、大隈公武さん・アイ子さん夫婦宅(年の神)のハウスで行われました。公武さんが地元農協を退職した際「地域に恩返しを」と始めて以来続いているもので、今年で13回目。
「最初の頃の子は、もう高校生。たまにイチゴ狩りのことを話されるんですが、うれしいですね」と公武さん。アイ子さんも「子どもの喜ぶ顔を見ると、来年もがんばらなくちゃ、って思いますね」。「元気な限りずっと続けます」と夫婦。最初は、飯田を夏のイチゴ産地にしようというもくろみもあつたようですが、今は、この日のイチゴ狩りだけのために作っているのだそうです。
この日参加したのは、年長組(4・5歳児)の29人。50坪ハウスの中に広がるイチゴ畑には、一切農薬を散布しておらず、食べ放題。子どもたちは目を輝かせ、口と手、服を真っ赤にしながらいちごをほおぼっていました。
子どもたちは、「もう食べられないよー」や「100個食べた」と、満足そうな様子でした。



はぁ〜満足、満足

野矢小学校運動会

野矢小学校の運動会が6月3日に行われました。同校で“初夏”の運動会が始まったのが、1992年。校舎建て替えがきっかけでした。一年限りのはずが、「気候もよく、案外いいのでは」と、今年で16回目。すっかり定着しました。地域住民が多く参加するのも特徴で、全27種目のうち、半数以上の15種目に参加。種目内容も、牛の餌を入れる重さ約150キロのロールをタスキ代わりにリレーをする「こりゃおおごつ」や、ゴムチューブをはずした自転車の車輪を棒で転がしながら速さを競う「昔とったきねづか」など誰もが気軽に参加できるもので、その間は「運動会」ではなく、「田植えよこい」の感もどことなく、もちろん、本来の主人公の児童15人もハッスル。会場を埋めた約200人の盛んな拍手を浴びていました。

競技だけでなく、事前の準備から打ち上げまで、多くの場面で住民が関わっている様子で、地域と学校の一体感の強さが印象的。その効果は各方面に出ているようです。同校では、校区内のことを調べる「野矢っこ探検隊」や「地域農園」などに以前より取り組んでおり、これら活動は地域住民なくしては成り立たないもの。また、秋に開催される文化祭にも地域住民が大勢参加。学校関係者は「総合学習の先取りのようなことができたのも地域と学校の連携があったからこそ。これほどつながりが強いところは、なかなかない」と話していました。



競技名は「こりゃおおごつ」。本当におおごつです。



地域のきずな、がっしりと

地域へのつながりは連係プレーで



地区担当職員制スタート

住民と行政が協働してまちづくりに取り組むこと。これが「自律のまちづくり達成」の大きな鍵となりますが、その基盤を作ろうと、「地区担当職員制」が始まりました。

管理職16人と企画調整課職員5人を、出身などを配慮しながら4地区ごとに「地域と行政のパイプ役」として配置。地域住民と同じ目線で、地域の課題やその解決方法を検討するもので、昨年町が策定した自律推進計画で提唱した「自助・共助・公助」の仕組みを、まちづくりの中に確立することをめざしています。

すでに町内ではさまざまな「自助・共助・公助」の取り組みが、分野ごとに行われています。しかし、分野ごと（縦割り）の対応ではカバーしきれない課題や、連携することでより効果を生む活動が数多くあるのも実態。必要に応じて各活動の連携を図りつつ、地域ごとに地域の特性や立地条件に応じた地域づくりをめざすことも、「担当職員制」には求められています。

さっそく6月に、各地区の区長理事会などとの意見交換会が行われました。このうち野上地区では6月1日に野上公民館で開催。区長理事4人と町職員4人が参加しました。

会議では、「新たに組織を立ち上げるのではなく、分野ごとに今ある組織を生かしていきながら具体的なイメージを作り、住民と行政との協働を模索していく」方向で一致。同地区も分野ごとの取り組みは多く見られるものの、お互いのつながりが無いのが実情のようで、「点を面にしていく必要がある」との認識を確認。「住民どうし、地区どうしの融合をするのもこの会の役割ではないか」という意見に、全員がうなずいていました。

また、一人暮らし高齢者などが増えており、災害時などの情報網の確立や生活支援など差し迫った課題も指摘され、「地域の悩みを、地区全体の悩みとして取り上げていく」この会の役割についても確認。当面はモデル地区を設け、その取り組みをすくい上げながら、野上地区全体の地域づくりの具体的なイメージ作りをすることになりました。

他地区でも担当職員と区長などとの意見交換会を開催。今後は、住民と行政の情報共有を図りながら、地域ごとの取り組みやテーマ、手法、役割分担について協議。将来的には地域の自主運営や、住民と行政の協働をさらに進め、多様・効率的かつ住民の満足度の高いまちづくりを目指します。



いざ、始動。



森高校男子ホッケー部

2 008年おおいだ団体に向けて、明るい話題がまたひとつ。

森高等学校に男子ホッケー部が誕生。珠高とのデビュー戦（第54回大分県高等学校体育大会）が6月4日、同校グラウンドで行われました。

試合は、事前の予想を覆し、森高が押し気味に展開。3対1で敗れたものの、「球の配給や展開の仕方がよく、初戦としては、ほぼ最高の出来」というのがもっぱらの声。同校関係者は「やるからには、トップを目指し、全国で戦えるチームを目指したい。」

そして、この中から全日本代表選手が出たり、リーダーが育ったりするような環境を作っていきたい」と話しています。

これまで県内の高校ホッケー部は、郡内の2校のみ。珠高に男子、森高に女子という構図が長く続いていました。そんな中、森高男子ホッケー部創部に向けた動きが出たのが2年前。現3年生の小川哲典くん（岩の上）が、入学と同時に同校女子ホッケー部や玖珠高男子ホッケー部の練習に参加したことがきっかけでした。中学校までは野球をしてきた小川くん、ホッケー選手として活躍してきた両親の影響からホッケーに転向。おおいだ団体に向けて、部のレベルを上げるための力になってほしい。そんな両親の願いもあったようです。

「本当を言うと、始めはあまり乗り気じゃなかったんです（笑）。それに玖珠高に練習に行くのも最初は戸惑いました。でもみんな気軽に接してくれて、とてもやりやすかったです。違う環境の中で練習をやらせてもらえ、勉強にもなりました」
チームプレーや友だちの関係の大切さを感じることができるとのホッケーの魅力と小川くん。

「ホッケーは体力や頭も酷使し、練習は辛いです。それだけに、勝ったときの喜びはたまりません」

しかし、母校に帰ればたった一人。やっつけていけるんだらうか。いつも不安があったと振り返る2年間。それだけに、ホッケー部の創設は大きな喜びでした。小川くんは初代主将に。少し照れながら、「大変なんですけど、主将になれて、よかったです。光栄です。」

デビュー戦は貴重な1点を自らのスティックからたたき出すといううれしいこともありました。試合には負けましたが、予想以上の善戦に明るい表情。

「試合前は大差で負けると思っていました。収穫ですか？勝つ、負けるに絶対はないということです。1年生にとっては、これからの自信につながったのではないのでしょうか。もちろん負けて悔しいですが、楽しかったという声もチームの中にはあります」

部員は現在14人。小中学校時代にホッケーをしていた生徒が多いことも善戦の理由のようです。3年生は小川くんを含め2人だけで、主体は1年生。2年後に控えるおおいだ団体での活躍に期待が高まります。

「チームは、まだまだこれから。ひと



前列左から2番目が小川くん



つひとつ勉強してもらって、しっかりとチームワークを作り、どこに出しても恥ずかしくないチームになってほしいです」
デビュー戦では体力や経験不足が課題として浮上したため、それらを克服するためのメニューを練習に取り入れ始めています。

小川くんは、高校卒業後は大学進学を希望。ホッケーを続け、いずれは九重町に帰ってきたいと話します。傍らで見つけた森高教頭の山崎隆典さんは、「彼はとてもバフフルで、気持ちが前面に出るタイプ。それが長所になることもあるけど、短所になることだって時には。これから大学でがんばり、経験を積んでいけば、短所も克服していくでしょう。将来有望。指導者になれる要素も持っていると思います」とエールを送ります。

最後に、おおいだ団体について聞くと、きっぱりと「出ないです」。成年男子ホッケーの会場は九重町。そこにはきつと小川くんの姿が。

8月より国民健康保険税の税率が次のように変わります。

医療保険分（全被保険者）

所得割額	課税総所得金額の 100分の9.2 → 100分の10.8
均等割額	被保険者1人につき 22,200円 → 25,800円
平等割額	1世帯につき 22,800円 → 25,900円
課税限度額	53万円（据え置き）

介護保険分（40歳以上65歳未満の被保険者）

所得割額	課税総所得金額の 100分の2.0 → 100分の2.2
均等割額	被保険者1人につき 8,800円 → 9,000円
平等割額	1世帯につき 5,400円 → 5,800円
課税限度額	8万円 → 9万円

みんなで支える国民健康保険



1

国民健康保険は、自営業者などが対象となり、お金を出し合い運営しています。これに国などからの支出金や前年度からの繰越金があったものを、町は国保特別会計（→NOTE）として設置。その規模は、2005年度では年間約13億円となります。この中から、対象となる人が病院などにかかった際の医療費が支払われますが、高齢化の進行などによって、年々その額が増えており、それに伴い、台所事情も苦しくなっています。

NOTE

特別会計とは
特定の事業を行う場合または特定の収入で事業を行う場合に、経理を一般会計と区別する必要があるため、法律や条例に基づいて設置しているもの。九重町では7つの特別会計を設置。

* 2005年度決算については、暫定のものです。

2

私たちが生活していくうえで大事なことのひとつが、いざというときの備え。国保特別会計で貯金に当たるのが基金。その年の収入だけでは足りないときに使われます。しかし、支出（医療費）の増大により、基金を使うケースが増えています。最近は特にその割合が激しくなり、2004年度に2億5千万円あった基金は、昨年1年間だけでも1億円減少。この調子で行けば、そう長くないうちに底をつくことが予想されます。



3

このため、今回、国保税を増やす必要が出てきました。これにより、国保特別会計の安定的な運営を行うことができるようになります。しかし、今後も高齢化の進展だけでなく、医療技術の進歩や生活習慣病の増大などで、さらに医療費が増すことも予想されます。

健康でいきいきとした生活はみんなの願い。その願いをみんなが実現することが医療費の削減、さらには国保特別会計のより安定した運営につながります。町の集団健診等を受診するなど、ぜひ、みなさんの健康づくりもお願いします。



限度額適用・標準負担額減額認定について

毎年7月31日が期限です。8月から新たな認定申請が必要です。

住民税非課税世帯の方は、申請により「限度額適用・標準負担額減額認定証」が交付され、医療機関に提示すると、医療費1ヵ月あたりの自己負担限度額及び食事代が減額されます。

対象者 次のいずれかの受給者証をお持ちの70歳以上の方が対象です。

- 老人医療受給者証（寝たきりなど一定の障がい認定を受けた方は65歳以上）
- 国民健康保険高齢受給者証

□69歳以下の方は標準負担額（食事代）のみ減額されます。

問い合わせ／ふれあい生活課 国保年金グループ(☎76-3802)



健診は健康管理の第一歩

年に1回は健診を必ず受け、
結果を毎日の生活に活かしましょう

健診の目的は、病気の発見だけでなく、病気を未然に防ぐためのボディチェックでもあります。生活習慣病の多くは早期にはほとんど自覚症状がなく、健診を受けることが早期発見・早期治療につながります。



メタボリックシンドロームとは？



内臓脂肪型肥満をベースに動脈硬化が進む！

九重町の3大死因は、がん、心臓病、脳卒中です。そのうちの心臓病と脳卒中は動脈硬化が要因となる病気ですが、最近、動脈硬化の危険因子として「メタボリックシンドローム」が注目されるようになってきました。

メタボリックシンドロームとは、肥満、なかでもお腹の内臓のまわりに脂肪がつく「内臓脂肪型肥満」の人が、脂質代謝異常（高脂血症）や血圧高値（高血圧）、高血糖（糖尿病）のいずれか2つ以上をあわせ持っている状態です。

これらは主に不健康な食事や運動不足などの生活習慣から起こるものですが、早期の段階ではほとんど自覚症状がないため、静かに進行していきます。そのまま放置しておくと、動脈硬化を引き起こし、心臓病や脳卒中といった命にかかわる病気へとつながるのです。

メタボリックシンドロームをチェックしてみよう

メタボリックシンドロームの診断基準

メタボリックシンドロームは、腹位が基準となります。腹位に加え、①～③のうち、2項目以上に該当したら、メタボリックシンドロームと診断されます。



あなたは
大丈夫？

□ 腹位

腹位 ● 男性85cm以上
● 女性90cm以上
(内臓脂肪面積が男女とも100cm²以上に相当)は内臓脂肪型肥満

腹位の測り方

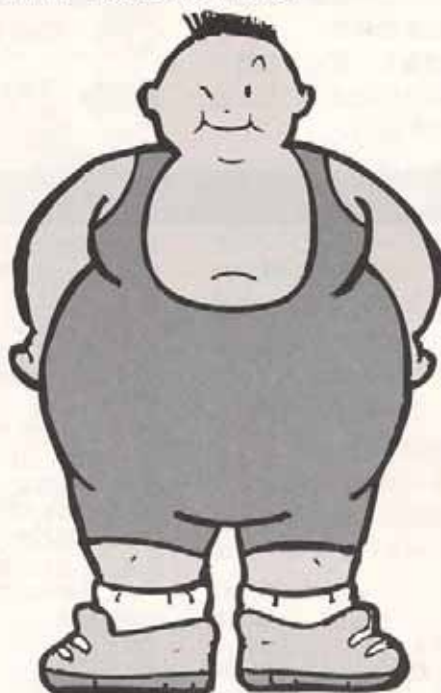
おへその高さで測ります。巻き尺が水平に巻かれているかを確認しましょう。

両腕は自然に下げ、普通に息をして、吐き切ったときに測ります。

□ 血糖

● 空腹時血糖値 110mg/dL 以上

3



□ 血清脂質

1

● 中性脂肪（トリグリセリド）値 150mg/dL 以上
● HDL コレステロール値 40mg/dL 未満
の両方またはいずれか

□ 血圧

2

● 最高血圧（収縮期血圧） 130mmHg 以上
● 最低血圧（拡張期血圧） 85mmHg 以上
の両方またはいずれか

食中毒にご注意！

問い合わせ
保健センター
(☎ 76-3838)

食中毒の発生しやすい時期となりました。6月15日から9月14日までの3ヵ月間に気象状況が食中毒の発生しやすい条件に達したときに、大分県から食中毒注意報が発令されます。

【食中毒予防の三原則を守って食中毒を予防しましょう！】

- ① 食中毒の原因菌をつけない・・・洗う、包む
- ② 食中毒の原因菌を増やさない・・・早めに食べる、低温保管
- ③ 食中毒の原因菌を殺す・・・加熱、殺菌



図書館だより



図書館開館時間
平日 10:00~18:00
土・日 9:00~17:00
月・祝 休み

★「今、日本では」★

LOHAS (Lifestyle Of Health And Sustainability の頭文字) が広がっているそう。LOHASとは「健康で環境を破壊せず維持するライフスタイル」という意味で、元々は商業の中から生まれた言葉だそうです。数年前からマスメディアでも取り上げられるようになってきたので、言葉は知ってるよという人も少なくないと思います。ところが昨年インターネット調査の結果によると、日本人の10人に3人がLOHAS層に属しているという。「知ってる」ではなく「やってる」人がそんなにいるとは！ただし、LOHASという言葉を知らなくても、「ある質問にいくつか当てはまれば、その人はLOHASです」ってことらしいので、実はワタシもLOHASだったという人もいるのかも。ちなみにLOHASな人の特徴をあげると・・・

- 風力、太陽発電、水素発電などのクリーンエネルギーに関心がある。
- 有機栽培、自然に優しい農業など地球を守ることに関心がある。
- 健康維持に積極的で、自然食品、ヨガ、代替医療などを取り入れている。
- 社会問題に対する関心が高く、行動力がある。
- 物質的だけでなく精神的にも向上したいとの意識が強い。
- エコツーリズムや環境負荷の少ない製品を好む。
- 商品を選ぶ時、価格にはあまり関心がなく、高くても安くても良いと感じられる物を購入する傾向がある。
- 商品が誕生したストーリーにまで関心を持つ。

● 環境を守るための行動を義務ではなく気持ちが良いこととして行っている。

・・・などなど。自分と環境のバランスをとり、どちらにも優しく無理をしないエコ・ライフを望んでいるのですね。何だか昔の日本のようだなと思ったら、やっぱりLOHASの元となる考え方は東洋の思想から来ているようで、だから日本人にとっても分かりやすく、受け入れやすいのかもしれない。注目を浴びた「もったいない」の精神も「クールビズ」も楽しんでしまうのがLOHASな人ってことでしょうか。詳しくは『日本をLOHASに変える30の方法/講談社』をどうぞ。

さて、ここで突然ですが、地球温暖化が止まりません。京都議定書の発行で日本は温暖化ガスを6%削減する目標を掲げています。だからという理由だけではありませんが、図書館もエアコン使用を控えめにがんばっています。ご利用のみなさんにもご理解とご協力をお願いします。夏は暑くて当たり前！心頭滅却(→NOTE)に読書で挑んでみませんか(笑)

今年も夏休み限定1時間のモーニングサービスを実施します！

期間 7月21日(金)～8月31日(木)
平日(火曜～金曜)の開館時間を9:00～にします。
※ 閉館時間及び土日の利用時間は今まで通りです。

NOTE 心頭滅却とは
心頭を滅却すれば火もまた涼し。いかなる苦しみも、心の持ち方ひとつで乗り越えることができるということ。

● 新着本 続々 ● 夏バテにはウナギと読書。夕暮れの涼しさを期待しつつ・・・。

《児童書・コミック》
もったいないばあさん1・2
キッズ・エコ
盾 シールド
でんでんむしのかなしみ
ゲド戦記 1～5
ハチミツとクローバー 1～8
海猿 1～12
身近な素材で楽しく作れる宿題アイデア工作
※ 第52回青少年読書感想文全国コンクール課題図書もそろってます！

《一般書》
うちの3姉妹
おなかの赤ちゃんとお話しようよ
ボケを防ぐ(ホーム・メディカ・ビジュアルブック)
英語訳つき楽しいおりがみ オールカラー版
ハリリー・ポッターと謎のプリンス 上・下 J. K. ローリング
豊の国 大分の植物誌 増補
世界を見る目が変わる50の事実

真珠まりこ
ケビン・ショート監修
村上龍
新美南吉
ル・グウィン
羽海野チカ
佐藤秀峰
東正樹
松本ぶりっつ
葉祥明
須貝佑一
三浦万里 訳
荒金正憲
ジェシカ・ウィリアムズ

やわらか頭「江戸脳」をつくる和算ドリル
続々と、旧暦と暮らす
浮かれ黄蝶
疲れのない体をつくる「和」の身体作法
池上彰のお父さんが読んで聞かせる楽しいお話
話し方のマナーとコツ
カレーな菜譜
マクロビオティックがおいしい。
天使と悪魔 上・中・下(文庫)
包んで楽しむふるしき
思い出の歌を手話でうたおう
中学生からの作文技術
英語を子どもに教えるな
大人も読みたい子どもの絵本
図書館戦争
イルカ
美味しんぼ塾
一流の田舎町
地球の食卓 世界24か国の家族ごはん
奇岩大陸 AUSTRALIA

高橋誠
松村賢治
平岩弓枝
安田登
池上彰
伊藤美紀
渡辺玲
ダン・ブラウン
日本放送協会編
伊藤嘉子
本多勝一
市川力
奥田健夫
有川浩
よしもとばなな
羅屋哲
森澤茂
ピーター・メンツェル
難波毅



九重サマーミュージックフェスティバル

福岡西陵高校管弦楽部

全国学校合奏コンクール4年連続全国大会出場！

ゲスト 杉谷昭子(ピアノ)・GOLD QUARTET

7月30日(日) 15:30～(開場15:00)

場所:九重文化センター 入場料:500円

問い合わせ 九重文化センター ☎ 76-3888

自死遺族のつどい

全国で年間3万人を超える方が自ら命を絶っている状況が続いています。

県内でも年間300人以上の自死者があり、悲しみやつらさを抱えながら暮らしているご遺族も少なくないと思われま。大切な人を自死で亡くされた遺族の方が、安心してお気持ちを語り合い共に過ごすことができる場として「自死遺族のつどい」を開催します。

日時 第1回 平成18年8月4日(金)
13:30~15:30(受付13:00~)

第2回 平成18年11月20日(月)午後
第3回 平成19年3月9日(月)午後

会場 大分県精神保健福祉センター
大分市大字玉沢908番地
(わさだタウンの近くです)

内容 グループミーティング
・数名のグループで、気持ちの「わかちあい」を行います。
・秘密を守ることを約束していただきます。
・ニックネームで参加くださっても結構です。

参加費 無料 (事前に参加の申し込みをお願いします)
申し込み・問い合わせ先
大分県精神保健福祉センター(ハートコムおおいた)
☎097-541-6290

エコマネー「めじろん」が始まりました

大分県では、マイバック運動やボランティア団体等による美化活動など、各種の環境保全活動に参加した方に対して、エコマネー「めじろん」を交付しています。エコマネー「めじろん」は、本年8月から県内各地のエコマネー地域センターでさまざまなエコグッズと交換できるほか、植樹への寄付もできます。

問い合わせ 県ごみゼロおおいた推進室
(☎097-536-1111 内線3023)
<http://www.pref.oita.jp/13010/ecomoney/>

期間が拡大されました(不妊治療助成事業)

大分県不妊治療助成事業の助成期間が拡大され、連続2年度から通算5年度になりました。

今まで助成を受けたことがある方でも、再度治療すれば、助成を受けられる場合があります。

1年以上大分県にお住まいのご夫婦であれば、所得制限はありません。

詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

日田玖珠県民保健福祉センター(旧日田玖珠保健所)
総務班 ☎0973-23-3133

平成18年町内地区別事故発生状況(累計、属地)

地区別	人身事故		物損事故	件数計
	死者	負傷		
東飯田	0	3	2	15
野上	0	13	5	23
飯田	0	22	8	61
南山田	0	17	12	35
計	0	55	27	134

(平成18年6月末現在)

110
交通安全

夏休み子ども工作教室

夏休みの工作の宿題は玖珠高で完成だ!!

日時 8月25日(金)9:00~15:00
場所 玖珠農業高等学校・造園土木科・造形実習室
対象者 郡内の小・中学生20名程度(先着)
その他 使用材料はある程度準備していますが、プラスチックや金具・粘土など特殊なものは持参してください。保護者同伴歓迎。送り迎えだけでもかまいません。昼食・水筒・タオルなどは持参してください。

申込 8月11日(金)までに、ハガキに住所・本人氏名・保護者名・学年・性別を記入して次の所まで申し込んでください。
〒879-4403 玖珠町帆足160
玖珠農業高等学校 造園土木科 工作教室係

我が国は急峻な地形のため河川は急勾配で、降雨が短時間に流出するため、洪水などによる災害が起こりやすくなっています。
そこで、風水害による被害を最小限にとどめるため、危険箇所はどこかなどを町役場等に尋ね、日頃から十分注意しておくことが大切です。
また、避難するときのために携行品(懐中電灯、ラジオ、非常食等)を準備し、家族非常連絡先や避難場所などについて重要なことはあらかじめ決めておきましょう。
実際に避難勧告や指示が出された場合には、これに従い避難をしていただくこととなりますが、周囲の状況から危険と判断した場合には、自主的に避難をして災害から身を守ることも大切です。
大規模な災害が発生した場合には、防災関係機関などによる活動が困難になることも予想されますので、住民一人ひとりが「自分たちの地域は自分たちで守る」という連帯意識を持ち、自主的な防災活動を行うことも大切です。



風水害への備え



平成18年度狩猟免許更新

日時 8月30日(水) 午前9時～午後5時
場所 九重町役場3階大会議室
種類は全種。対象は平成15年度に狩猟免許を取得した人
受付期間は8月7日(月)～8月18日(金)
詳細は西部振興局農山村振興部
☎ 0973-22-2585 まで

平成18年度狩猟免許試験

	種類	日時
試験①	網・わな猟	8月11日(金)
	第1種・第2種銃猟	8月10日(木)
試験②	網・わな猟	9月24日(日)
	第1種・第2種銃猟	9月23日(土)

時間はいずれも午前9時～午後5時
会場 試験①は大分県日田総合庁舎(日田市城町1)、
試験②は大分県共同庁舎(県庁)
申請書の受付期間
試験①は7月28日(金)まで、試験②は8月28日(月)から9月8日(金)まで
詳細については西部振興局 ☎ 0973-22-2585

高齢者の技能講習(警備関係)受講者募集

講習内容 警備関連業務技能講習
実施場所 日田商工会議所(日田市三本松2-2-16)
実施期間 平成18年8月16日～24日の間(7日間実施)
対象者 8月16日現在で55歳以上64歳までの人。
20人(多数の場合は抽選)。
受講料 無料
申し込み締め切り 8月9日(水)
問い合わせ (社)日田市シルバー人材センター
☎ 0973-24-7676

第16回暴力追放・銃器根絶大分県民大会

とき 8月23日(水) 午後2時～4時
ところ 中津文化会館(中津市豊田町14)
内容 講演「中津藩蘭学と人材育成」川島真人さんほか

町営住宅入居者募集

募集住宅① 町営書曲改良住宅1戸
(3K・九重町大字松木156-1)
募集住宅② 町営吉部住宅1戸
(3DK・九重町大字田野1712-68)
申込期限 平成18年8月10日(木)
問い合わせ・申し込み
建設課管理水道グループ ☎ 76-3811

住宅耐震改修に伴う 固定資産税の減額措置について

既存の住宅について耐震改修した場合、一定期間、一定部分の固定資産税が2分の1に減額されます。

1. 要件

昭和57年1月1日以前に建てられた住宅について、平成18年1月1日から平成27年12月31日までの間に、建築基準法に基づく現行の建築基準(昭和56年6月1日施行)に適合させるように改修工事(1戸当たり工事費30万円以上のものに限る)を施工した場合において、原則として改修後3ヶ月以内に申告された方に限り、家屋の固定資産税を一定期間減額します。

2. 適用範囲

減額の適用となるのは1戸当たり120平方メートル相当分までとします。

床面積	減額率
1戸当たりの床面積が120平方メートル以下のもの	税額の2分の1
1戸当たりの床面積が120平方メートル以上のもの	120平方メートル分の税額の2分の1

3. 減額期間

改修工事が完了した年の翌年度分から、次の表に示す期間で適用されます。

工事完了時期	減額期間
平成18年1月1日から平成21年12月31日までに改修した場合	3年間1/2に減額
平成22年1月1日から平成24年12月31日までに改修した場合	2年間1/2に減額
平成25年1月1日から平成27年12月31日までに改修した場合	1年間1/2に減額

4. 手続き

減額を受けようとする納税義務者は、次の必要書類を添付して、改修完了後3ヶ月以内に町の税務課資産税グループに申告下さい。

5. 必要書類

1. 申告書(対象となる住宅の納税義務者が記入したもの)
2. 改修により耐震基準に適合した住宅であることの証明書(地方公共団体、建築士、指定住宅性能評価機関又は指定確認検査機関が発行したもの)
3. 耐震改修に要した費用の領収書

問い合わせ 九重町役場税務課資産税グループ
☎ 76-3803 内線 136

水の写真コンテスト

水のある風景、水を利用している場面、水道施設などを題材にした作品を募集

応募締切 平成18年9月11日(月)

応募要領等の問い合わせは、大分県簡易水道協会 ☎ 097-536-1000まで

大分県では、大雨などの際の雨量、水位、土砂災害等に関する防災情報を次のとおり提供しています。
土砂災害等の「災害想定区域図」は各集会所に掲示しています。

森林の伐採や開発には届出や許可が必要です。

公益的な機能を有する森林の保全と適切な利用を図るため、森林の伐採や開発を行うときには、届出や許可が必要です。

林地開発許可について

森林（保安林を除く）を1haを超えて開発するとき、事前に知事の許可を受ける必要があります。開発計画のある方は、早めに最寄りの県振興局にご相談ください。

保安林について

国や県は特に機能の優れた森林を「保安林」として指定しており、保安林の機能が常に発揮されるよう伐採や土地の形質の変更等には一定の制限や義務が課せられています。

1. 皆伐するときは伐採の許可と伐採後は植栽する義務があります。
2. 択伐するときは、あらかじめ県振興局に択伐の届出を提出する必要があります。
3. 間伐するときは、あらかじめ県振興局に間伐の届出書を提出する必要があります。
4. 保安林の土地の形質変更（開発等）は原則としてできません。
 - (1) 保安林が保全していた人家や集落が無くなるなど、指定の理由が消滅したときや、公益上の理由により必要が生じたときのみ、保安林を解除し開発することは認められています。一般的な開発目的で保安林を解除し、開発することはできません。
 - (2) なお、一定の基準に該当する場合は、作業許可を受けて実施できる場合がありますので、早めに県振興局にご相談ください。

問い合わせ 大分県西部振興局 農山村振興部
森林・林業第一班 ☎ 0973-22-2585

森林環境税を活用した「街角木ポイント設置事業」提案募集

木製品および木造施設の設置に関して、事業提案を募集します。

募集内容 ①県産材を使用②波及効果が期待できるもの③広く一般に供するものか構成員が共同で利用するもの④18年度で完成するもの⑤その他要件有。お問い合わせください。

助成額 助成対象経費の1/2以内（100万円上限）

募集期間 平成18年8月15日まで

応募者 ①自治会②校区公民館組織③商工会及び観光協会④その他県産材の利用に取り組む団体（原則5人以上の団体で規約等を整備）

問い合わせ 大分県西部振興局 農山村振興部
森林・林業第二班 ☎ 0973-22-2585

森林づくりマスコットキャラクター募集

応募方法

- ①官製はがきを利用し、1枚につき1点。
- ②作品はカラー。
- ③簡単な説明をつけ、④住所、氏名（ふりがな）、年齢、性別、職業（学校名・学年）、電話番号を記載し、⑤1人1点、未発表のものを。

募集期間 7月31日まで（当日消印有効）

「ふるさとあいたの森」写真コンクール

県内の森の風景及び県内の森林づくりへの取り組みを紹介する写真を募集

- ①6切～4切（白黒またはカラーでデジタル写真も可）の1枚写真で、一人何枚でも応募できるが未発表のもの、ただし②合成や日付入りの写真は不可。
「タイトル、撮影場所、撮影年月日、簡易な説明文（50字程度）、住所、氏名、電話番号、年齢、職業または学校名、デジタル写真の有無」を記載した応募票を添付。

応募期間 来年2月15日まで（当日消印有効）

応募先・問い合わせ

〒870-8501 大分市大手町3-1-1
大分県農林水産部 森との共生推進室 森づくり推進班
☎ 097-536-1111（内線3872・3873）

森林環境税を活用した新たな森林づくり事業提案の募集

募集項目（アイデアのみでも可）及び助成額

募集項目の内容	助成額等
(1) 森林づくり提案 森林に関して理解や関心を高めるための活動	原則として1実施主体当たり50万円以内
(2) 遊び学ぶ森林づくり推進事業 子どもたちを対象に行う、遊び学べる森の整備や子どもたちの森林体験活動	①森の整備：3/4以内（上限100万円） ②森林体験活動：原則として1実施主体当たり50万円以内
(3) 新たな育林技術等研究開発事業 新たな育林技術や木材等新用途のための研究開発	一研究開発当たり1,000万円以内 研究期間は3年以内
(4) その他 森林環境保全や森林を県民で守り育てるための必要な事業	

募集期間 平成18年9月30日まで

応募者 県内に居住又は事務所をおく人

提案書の提出及び問い合わせ

大分県西部振興局農山村振興部 森林・林業第一班
☎ 0973-22-2585

大分県奨学会予約奨学生の募集について

平成19年4月に高等学校及び高等専門学校・専修学校高等課程へ進学することを希望している方を対象に予約奨学生を募集します。

募集期間 9月中旬まで（在学する学校を通じて）

貸与期間 来年4月から在学する学校の標準修業期間の終わる月まで。

貸与月額（返還しなければなりません）

国公立		私立	
自宅	自宅外	自宅	自宅外
18,000円	23,000円	30,000円	35,000円

問い合わせ先 (財)大分県奨学会 ☎ 097-536-1111

内線 5614・5620

または各学校の奨学金担当の先生へ

「大分大学」学歌の詞を募集

応募締切 平成18年8月18日（金）必着

歌詞は3番構成。専用の応募用紙あり。

問い合わせ

大分大学学生支援部教育支援課内「大分大学学歌（作詞部門）公募係」☎ 097-554-7442

<http://www.oita-uac.jp/bosyu/>

今年のサマージャンボ宝くじは

億万長者が168人！

なんと、去年の2倍！

発売は8月1日（火）まで

自動車税・夜間納税相談窓口開設

自動車税の納期限（5月31日）を過ぎていますが、何らかの事情でまだ納付されていない方を対象として、夜間納税相談窓口を開設します。

なお、都合で来所できない方には、電話での相談にも応じます。

日時 8月3日、10日、24日、31日

いずれも木曜日で、午後8時まで

場所 日田県税事務所

（日田市城町1丁目 日田総合庁舎1階）

*納税証明書の発行はできませんので、ご了承ください。

問い合わせ 日田県税事務所総務課

☎ 0973-22-4175

今月の行政相談

8月22日（火）九重町隣保館
（心配ごと相談所と同時開催）

8月29日（火）野上公民館
（心配ごと相談所と同時開催）

時間は9:00～12:00

石綿（アスベスト）健康診断について

アスベストを原因とする中皮腫、肺がんについては、アスベストにばく露してから30年～40年という非常に長い期間を経て発病と言われていています。

大分県においても宇佐市内の、旧アイコー株式会社九州工場（昭和44年操業、平成11年5月閉鎖）において製品製造過程でアスベストが使用されていた可能性が認められています。

大分県宇佐豊後高田県民保健福祉センターでは、アスベストにばく露している可能性のある元従業員の方を対象に、次のとおり健康診断（胸部レントゲン検査）を実施しますので、希望される方は直接宇佐豊後高田県民保健福祉センターへお問い合わせください。

なお、アスベストに係る健康相談や健康被害救済制度についてのお問い合わせは最寄りの県民保健福祉センターや保健所へ相談してください。

1. 健康診断の対象者

旧アイコー株式会社九州工場の元従業員

2. 費用 無料

3. その他

元従業員の家族及び同工場の周辺に居住していた方についても、同センターにご相談ください。

※連絡先 大分県宇佐豊後高田県民保健福祉センター
宇佐保健福祉部
（宇佐市大字法鏡寺235-1宇佐総合庁舎内）
☎ 0978-32-1350

大分県介護支援専門員実務研修受講試験

試験期日 平成18年10月22日（日）

試験地 大分市、日田市、佐伯市、宇佐市

受験申込書の受付期間 7月14日（金）～8月4日（金）

試験手数料 7,000円

受験資格などのお問い合わせは、

県民保健福祉センター玖珠支所（☎ 72-1150）

または大分県介護保険室（☎ 097-532-6106）までお願いします。

ホームヘルパー2級養成講座

土曜講座 毎週土曜（午前10時～午後3時まで）
※昼食時間1時間あり

集中講座 午後5時～午後8時まで（5人以上で開講）

職業訓練 ハローワーク受付（テキスト代のみ）

いずれも、通信講座です。

上記のスクーリング（42時間）と自宅学習（問題集）及び介護実習があります。

受講料（テキスト代含む） 一般 73,500円
高校生 65,000円

お問い合わせ （有）美智 玖珠ヘルパーステーション
（玖珠町塚脇183-1）☎ 72-2601

8月1日は「水の日」8月1日～8月7日「水の週間」です。

労働安全衛生法に基づく免許試験

日本文理大学で、次の日程により実施されます。
受験申請書の受付期間 平成18年8月21日(月)～8月23日(水)

試験日	試験の種類	受験申請書提出先
9月30日 (土)	第1種衛生管理者 第2種衛生管理者 潜水士	(社)大分県労働基準協会 ☎ 097-532-5763
	1級ボイラー技士 2級ボイラー技士(A)	(社)日本ボイラ協会大分支部 ☎ 097-532-5749
10月1日 (日)	クレーン・デリック運転士(クレーン限定) 移動式クレーン運転士	(社)大分県労働基準協会 ☎ 097-532-5763 特殊技能教育センター ☎ 097-583-4686
	移動式クレーン運転士	(社)大分産業機械技能教習所 ☎ 097-554-2246
	2級ボイラー技士(B) ボイラー整備士	(社)日本ボイラ協会大分支部 ☎ 097-532-5749
	発破技士	(社)大分県労働基準協会 ☎ 097-532-5763

試験についてのお問い合わせは、上記の各団体のほか九州安全衛生技術センター(☎ 0942-43-3381)へお願いします。

入国警備官採用試験

第1次試験 9月24日(日)
受付期間 8月1日(火)まで(郵送の場合)
受験資格 昭和58年4月2日～平成元年4月1日生まれの人
問い合わせ 人事院九州事務局
☎ 092-431-7733

民事介入暴力集中相談所の開設

暴力団等が関係した被害や不当な要求などの困りごとについて弁護士、警察官などが面談および電話による相談に応じます。

日時 平成18年7月28日(金)
午前10時～午後4時
場所 コンバルホール3階
(大分市府内町1丁目)

当日の相談電話は097-538-4704

また(財)暴力追放大分県民会議では通常執務時間中、(☎ 097-538-4704)で相談を受け付けています。

障がい児巡回就学相談

日時 10月13日(金) 10:00～16:00
日田教育事務所
(日田総合庁舎内・日田市城町1丁目)
☎ 0973-23-5125
相談対象者 来年度就学予定の障がいのある幼児の保護者または関係者
相談内容 就学予定の障がいのある幼児の家庭での接し方、保育、教育に関すること等
相談の申し込みは8月31日までに九重町教育委員会(☎ 76-3828)へ

55歳から64歳までが対象のホームヘルパー養成研修(2級課程)

実施期間 9月12日から11月22日の間の25日間
実施場所 日田市総合体育館(日田市田島3丁目)ほか
対象者 9月12日現在55歳以上64歳。全日程受講でき、研修終了後、介護業務に就職(業)可能な方
募集期間 7月18日(火)～8月25日(金)
受講料は無料。定員は15人(多数の場合は抽選)。
問い合わせ (社)日田市シルバー人材センター
☎ 0973-24-7676

平成18年度防衛庁各種学生募集案内

募集種目	応募資格	1次試験	試験会場
一般曹候補生	18歳以上24歳未満の人(男女)	9月16日	日田市役所
曹候補士	18歳以上27歳未満の人(男女)	9月16日	日田市役所
航空学生	高卒(見込み)21歳未満の人(男女)	9月23日	大分県中小企業会館
2等・陸・海・空士	18歳以上27歳未満の人	受付時に指定	日本文理大学

受付は8月1日(火)～9月8日(金)

詳しくは役場ふれあい生活課又は大分地連珠連絡所(☎ 72-1116 内線371)

オープンキャンパスご案内

日時 平成18年7月26日(水)
13:30～16:00
場所 大分県立工科短期大学校
(中津市大字東浜407-27)
来年度から機械、電子、建築の3システム系7コース制へ移行します。その説明や受験相談コーナーも開設。ぜひ、この機会にキャンパス見学にきてください。

大分県立工科短期大学校
☎ 0979-23-5500

今月の年金相談

日時 7月26日(水)10:00～15:00
場所 九重町役場1階・102会議室

今月の納税

【国民健康保険税】(仮算定)

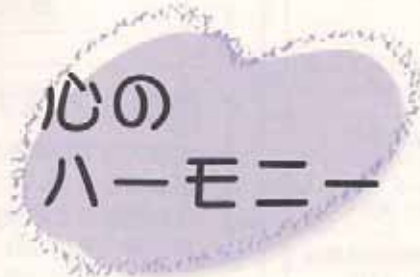
納期限 7月31日

幸せになるひびね

人権 心の扉

No.126

隣保館人権問題学習会で、「スタート」のみなさんのコンサートを聴く機会がありました。「スタート」のみなさんは、障がいのある中、音楽を通して自分の思いを、歌と演奏で表現されています。自分の思いを歌詞に託し、曲にのせて一生懸命演奏されていました。聴いている私たちの心に届き、響く、素敵な演奏でした。とても感動しました。



音楽には、不思議な力があります。人に感動をあたえ、「勇気」と「希望」をあたえてくれます。「スタート」のみなさんの演奏は、「生命力」があり、音が生きています。「一生懸命な姿から学ぶことがたくさんありました。担当のスタッフの方のお話から、練習をはじめた時からの思いや今にいたるまでのメンバー一人ひとりの努力と音楽に対する追求・精進の姿をお聞きし、感性が豊かで心を磨いているからこそ人に感動

をあたえる演奏ができるのだと痛感しました。また、「心のスロープ」というお話も「障がいのある方に、かべがあるのではなく支えるまわりの人々の心の中にかべをつくってしまっている。心のスロープをたくさんの人に持っていただきたい。そして、笑顔をください。声をかけてほしい」と言われていました。

心の中には関係ないではなく、心にとどめておきたいことばですね。障がいのある方をまわりがどう支えることができるのか。みなさんも一緒に考えてみましょう。偏見を持つたり、差別したりすることなく共に生きられる社会を願っています。お互いを思いやる心を大切に、心のハーモニーを奏でてゆきましよう。

隣保館人権啓発指導員 安藤千恵美

無料人権法律相談所

日時：8月9日(水) 10時～15時
場所：九重町役場301会議室
相談担当：人権擁護委員

＝2006年7月・8月休日当番＝

病	月	日	医療機関名	住所	電話
院	7月	17日	北山田クリニック	北山田	73-2030
			長内科小児科胃腸科医院	春日町	72-2143
		23日	玖珠記念病院	塚脇	72-1127
		30日	麻生消化器科内科医院	山田	72-7100
			友成(町田)医院	町田	78-8811
	8月	6日	井上医院	恵良	76-2711
			三池循環器科内科医院	塚脇	72-6101
		13日	友成(産婦人科)医院	塚脇	72-0330
			飯田高原診療所	飯田	79-2138
		14日	小中病院	塚脇	72-2167
	15日	高田病院	春日町	72-2135	
	20日	武田医院	森	72-0170	
		矢原医院	野上	77-6121	

歯	月	日	医療機関名	住所	電話
科	7月	17日	北山歯科医院	大山町	0973-52-3553
		23日	倉成歯科医院	森	72-0450
		30日	村山歯科医院	日田市	0973-22-3303
	8月	6日	上津江町歯科診療所	日田市	0973-54-3198
		13日	高田ビル歯科医院	日田市	0973-22-2317
		20日	是永歯科医院	帆足	72-1020

獣	月	日	獣医師名	電話
医	7月	23日	佐藤 獣医	77-6448
	8月	5日・13日・26日		
	7月	22日・30日	山本 獣医	78-9101
	8月	20日・27日		
	7月	17日・29日	甲斐 獣医	76-3324
	8月	6日・12日・19日		

★都合で変更する場合があります。

玖珠消防署：● 救急は119番 ☎72-2141
● 火災の確認は ☎72-5100

備考 大分県中西部農業共済組合 ☎72-3409
休日当番の電話番号(携帯)は 090-5721-8191

歳時記

季題

8月号

「花火」「雷」

「墓洗う」

9月号

「稲」「虫」

「爽やか」

「南風」(はなご)

今月の季題

「南風」(はなご)

「髪洗う」「蟻」



南風はなごに乗り遠き孫より便り来る
介護士の指細やかに髪洗う
蟻の列目で追う先にルール在り
南風白衣の女医の急ぎ足
髪洗い明日は受診の杖となり
髪洗ふ妻はあしたは美容院
初孫を湯舟で髪を洗いけり
髪洗ふ曾孫こゝろ三味線発表会
運勢の明日は上々髪洗う
病みあがり嫁は昼間に髪洗う
髪洗い外はそよ風客を待つ
大蟻と小蟻ぶつかりごあいさつ
蟻たちが朝早くから列つくり
蟻の群菓子のかけらを喚ぎつけて
大南風おほみなみかぜ回す発電大風車

「南風はなごに乗り遠き孫より便り来る」表現が旨く味がある。「介護士の指細やかに髪洗う」手慣れた介護士の指先から心が伝わる。「蟻の列目で追う先にルール在り」蟻の行列の表現が妙。
季重せむねねに注意。南風はなごと初夏・早苗・山開き等。髪洗うと汗。大掃除と蟻も。

選者 麻生 良昭

このコーナーは町民どなたでも応募できます。ハガキに作品名と住所、氏名、電話番号をお書きのうえ企画調整課広報グループまでご応募を。なお、応募作品は返却しません。

- 佐藤 修正
小野 十三日
原田 勝子
井上 マキ
藤澤 節子
清竹 勇藏
小野 ミツノ
玉井 多喜子
伊東 匡子
穴井 久美子
森高 マサヨ
赤峰 幸子
佐藤 元八
湯浅 加代子
選者 吟

添削がありますのでご了承ください。 広報

このえ 時間旅行

ふるさと再発見 142

地名を歩く 栗野(3)

九重町文化財調査員 甲斐素純



江戸時代の一行政区画としての「村」は、現在の「大字」か、それより小さい区画が一村であった。たとえば大字松木内には、かつて「松木村・辻村・書曲村」があり、大字石田には「石田村・上田村・下田村」があった。大字引治には「引治村・小引治村・木納水村」があった。

各々には、それぞれ長(オサ)としての「庄屋」以下、村役人(村方三役)があり、必要に応じて「〇〇村銘細帳」とか村鑑帳といった各村々の各種情報が一冊で分かる書類が作成され、必要に応じて代官所などに提出された。

九重町内では幸いにも、田野村や上田村、下田村、見良津村などの銘細帳が残されている。また栗野村のものもある。これらの資料が残る可能性のあるのは、旧庄屋、組頭、百姓代などの家で、栗野村の庄屋は代々森家であった。その所在地は栗野本村の入口、信号のところ(森農機)の上部(背後)の字「中城」で、現在は田になっている。

これは先年、中山間地総合整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査が行われ、その調査報告書(「栗野遺跡」)が教育委員会から発刊されている。

これから紹介する「豊後国玖珠郡栗野村銘細帳」(享保二〇年一七三五)は、玖珠町発行の『玖珠町史』編纂途中で玖珠町・宿利天祐氏所蔵として新発見されたものである。

まず、村に年貢をかけるためには、その村の田畑の取れ高・広さ(面積)と、それらの状況・耕作条件等を勘案されたランク付けとして、「上田・中田・下田・下々田」の石高と面積(畑



旧栗野村庄屋敷跡(向こうは宝山)

弔慰

お悔やみ申し上げます

おなまえ	年齢	行政区
井上 キミ	98	南 恵 良
小川フミ子	88	桐 木 五
高倉 成功	88	青山住宅
梅木 甚吾	90	南 区
吉武 コト	89	前 辻 一
梅木 智博	87	陣の内下
池部 哲彌	62	下右田(野)
大津留 晋	80	宝 泉 寺

人の動き

6月1日～6月30日届出分

(敬称略)

人口と世帯

人口	11,527 人 (- 11)
男	5,481 人 (- 1)
女	6,046 人 (- 10)
世帯	3,919 (- 3)

() は前月との増減

サッカーを見に行こう☆

対象試合：2006年8月30日(水) 19時キックオフ
大分トリニータ 対 浦和レッズ
開催場所：九州石油ドーム(大分市)
招待者数：小中高生1,000人、一般市(町村)民1,000人
(申し込み者が多数の場合は抽選となります。)
招待内容：小中高生は無料、一般の方は1,000円
申込方法：往復ハガキに対象試合、観戦希望者全員の氏名(小中高生は学校・学年)、代表者(返信先)の住所・氏名・電話番号を記入して申し込んでください。(団体の場合は、団体名・住所・電話番号・小中高生の人数・一般の人数を記入してください。)
申込先：〒870-0021 大分市府内町1-6-21 (株)大分フットボールクラブ 市町村招待事業係
申込期間：8月3日から16日まで(当日消印有効)
その他：試合当日、九州石油ドームの特設テントで、往復ハガキの復信を入場券と交換します。



▶九重飯田高原ナイトハイイク



おめでとうございます

出生

おなまえ	性別	保護者	行政区
左藤 涼子	女	啓三	後 河 内
高橋 遥叶	男	徹	平 家 山
田川 葉菜	女	正治	中 村 上
佐藤 良祐	男	幹彦	滝 上
熊谷 空河	男	大志郎	日 向 上

書曲どろんご祭り

7月23日(日)

涼風フェスティバル2006

7月29日(土) 10:00

町田バーネット牧場(☎78-9446)

九重飯田高原ナイトハイイク

8月5日(土)～6日(日)

泉水グリーンパークを興着。

問い合わせ 商工観光課

☎76-3150 FAX76-2247

観光インフォメーション

長野馬貞顕彰俳句大会投句募集

応募期間：8月1日(火)～25日(金)*当日消印有効

1. 2句一組で投句料1,000円。何組でも可。
2. 有季定型・当季雑詠、未発表作品(「馬貞忌」を季語とします)
3. 規定の応募用紙または200字詰め原稿用紙に規定の応募用紙の内容で、住所・氏名・俳号、当日句会(9月27日)の出欠を書いて投句してください。

あて先 〒879-4895 九重町役場生涯学習課

長野馬貞顕彰俳句大会実行委員会

問い合わせ：生涯学習課(☎76-3823)

8月のお知らせ

町長と語る
ふれあいタイム

8月26日(第4土曜日)

午後6時～午後9時(夜間開催)

場所は町長室です。お気軽においでください。

もんじ

■ 10の「ブルーベリー物語」	2～10	■ 森高男子ホッケー部	19
■ “夢”大吊橋関連	11	■ 国保税率変更	20
■ 田橋え・田橋え・田橋え・田橋え	12・13	■ 保健(メタボリックシンドローム)	21
■ 高橋美帆さん(海外青年協力隊)	14	■ 図書館だより	22
■ 武石房子さん(サツキ)	15	■ くらしの情報	23～27
■ ニュースクラブブック	16・17	■ 人権/休日当番	28
■ 野矢小運動会/地区担当職員制	18	■ 歳時記/時間旅行	29

編集後記

●これは快進撃なのでしようか。3ヵ月連続で大きな特集を続けました。おまけに載せるべき情報も非常に多くなっており、ページ数が増えています。動いて変わっていくからこそ、「いきもの」なんだ。糸井重里さんの言葉ですが、最近の九重町もそんな感じ。しっかりと生きていますね。今月はブルーベリーにちなんで話集を集めました。読み取り開始した人、果実を使つて商品を開発した人、さまざまですが、今月に限らず、いつも悩むのが、いいものを作っているのに、広報紙という性格上、なかなかコマシヤルできないこと、そのかわり、人に焦点を当てるのが広報スタイルなんです。この考えに間違いはないと思つてます。でも、作った商品にも、その人の仕事や町に対する考え方(愛情)が、つまっているんですね。だから、ちょっとだけ、商品のことでも取り上げないといけない。このビミョーなバランスが難しいです。そういったことも、悩んでいるわけです。今月だけ、ちよつとウサを晴らすため、特別にこつそり言ひますね。「本当に全部、すばらしくおいしかったですよ。」先月号の「図書館特集」、予想以上の好評をいただきました。ありがとうございます。特に手書きの部分が人気。そんな中、うれしいメールをいただきました。町外から引越した方のように、町の図書館や児童館の暖かい雰囲気は、「子どもにとっても、私にとっても心の支えです」と書いていただきました。広報のことも、「以前住んでいた町の紙でしかなかったけど、広報このえを見て、「こんな楽しい広報もあるんだ」とびっくりし、レポートに毎月楽しみにしています。」と、もううれしかったです。何度も読み返しました。でも、まだまだ改善の余地があります。その方も指摘していましたが、若い人が見ても感じる字の小ささなどもその一つ。いつも悩んでいます。また、以前取り上げたことその後はどうなったかの追跡取材も大事となりました。そのとおりです。これからもしっかりと問題提起していきます。あらためて申し上げます。広報住民の、このビミョーなバランスが、広報のおもしろさの理由のひとつかもしれないです。さらに言えば、住民と町の間も、ビミョーなバランスというのが大事になってくると思っています。

町の面積 271.41km² / 町の木 くぬぎ 花 ミヤマキリシマ 鳥 カッコウ